

戶長役場
各縣立學校
病院

地方費ヲ以テ建造セル屋舎及ヒ之ニ屬スル建物等ハ町村會ノ決議ニ依リ一戸金何程又ハ建坪一坪ニ付金何程等ノ定率ヲ以テ協議費賦課ノ向モ有之哉ニ相聞ヘ候處右ハ賦課スルヲ得サル義ニ付爲心得此旨相達候事

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニ在リ)

第六拾六項 應舎借入ヲ要スルキハ其借入ルヘキ家屋

ノ位置ヲ記シタル町村ノ略圖ヲ添ヘ(滿期後引續キ借入ルルキハ略圖ニ添フル)約定スヘキノ要領(借料修繕ノ負擔借入年限等ノ類)ヲ具シ

警察本部長ノ指揮ヲ受クヘシ

但經伺ノ上ハ明治十五年六月本縣乙第百二十三號達約定書按ニ照準シ決約十日己内ニ約定書寫ニ圖

明治十六年六月二十九日付ヲ以追加

面ヲ添ヘ届出ヘシ

○明治十六年警甲第一號達

第三十節 警察署營繕取扱心得

第一條 建築修繕ノ事業ハ警察本部之ヲ負擔シ概子春秋二季ニ施行ス

第二條 各警察署ニ於テハ建築修繕費豫算決定額ノ達ヲ受クレハ豫算廉書ケ所ノ緩急ヲ量リ春季ハ一月中秋季ハ七月中廉書ヲ以テ詳細警察本部長ニ開申スヘシ但豫算廉書ノ内金高拾圓未滿ノモノハ第三條第五條ノ手續ニ依リ警察署ニ於テ直ニ受負人ヲ定メ施業スルヲ得

第三條 本署ニ於テハ前條ノ開申書ヲ審査シ時宜ニ依リ實地ニ踏驗シ仕様帳ヲ調整シ別冊受負人保証人心得ヲ示シテ公入札セシメ其最モ廉價ナルモノヲ落札トシ請

明治十九年乙第十九號ヲ以但書改正

負人ヲ定ム

但臨時急施ヲ要スル場合又ハ金高拾圓未滿ノ分ハ入札ニ付セス受負人ヲ定ムルコトアルヘシ又入札望人無之歟入札再次ニ及フモ不相當ト見認ルキハ直ニ受負人又ハ定備人ヲ定ム

第四條

天災地變及其他ノ災害ニ罹リ急破ニ付止ムヲ得サル仮修繕又ハ取片付ヲナサ、ルヲ得サル場合ニ際シ暫時モ猶豫ナシカタキ時ハ直ニ着手スルコトヲ得ルト雖モ其事由ヲ速ニ警察本部長ニ開申シ又ハ工事ノ大小ヲ量リ營繕掛出張ヲ要スルト見込トキハ其旨附申スヘシ

第五條

第三條本行ニ掲グル受負人決定ノ上各警察署ニ於テ着手スヘキ旨ノ達ヲ得レハ雛形ノ如ク受負証及受負人保證人必得書ニ名印シテ差出サシメ其署ニ留置心得書各條ニ依リ所分スヘシ

第六條

工事ハ各警察署ニ於テ施業ヲ落成ノ上雛形ノ如キ精算帳ヲ受負人ヨリ調製差出サシムヘシ但事業ノ大小緩急ヲ計リ本部員詰切又ハ臨時出張檢査スルコトアルヘシ

第七條

古木竹石類ハ本部員出張等ノ際協議シ不用ニ屬スルモノハ各警察署ニ於テ公入札ニ付シ落札人ヲ取極メ警察本部長ニ開申シ裁決ヲ得テ處分スヘシ

某所(署校院)何々修繕新營出來形精算帳

一金何程

職工人足諸色一式之費

右仕様

一何所土臺何間朽腐ニ付檜何寸角ヲ以テ割繼取換柱何本根繼入壁貫何丁杉何寸何分ニテ取換壁下地ヨリ兩面上ハ塗迄何坪繕
一敷鴨居松何間何尺何寸ニテ何挺取換

一床何坪分修繕ニ付大引杉何寸丸太長何尺何本根太何寸
 角何本床板松杉巾何寸何分板ニテ何坪取換
 一屋根瓦何枚足入何坪分葺換又ハ何瓦何枚差瓦繕ヒ棟熨
 斗伏間トモ何篇何間築立
 一硝子障子何本ノ内硝子何尺何寸何枚取換
 一障子何本何紙ニテ張換
 一疊表何縁付又ハ琉球無縁ニテ何枚表換
 一板塀何間柱何本何木ニテ取換板何坪分板目板取換墨
 塗澁押へ
 一惡水溝何間何石ニテ組立
 右ノ分都テ順序ニ隨ヒ明細ニ仕樣ヲ
 認ムヘシ新營モ凡比例ニ倣フヘシ
 内
 金何程
 此工數何人
 大工方
 一人ニ付金何程

金何程
 内
 何本
 但何々遣
 代金何程
 何程
 但何々遣ヒ
 代金何程
 金何程
 内
 何坪
 代金何程
 金何程
 内
 何所何塗
 二坪ニ付金何程
 瓦
 方
 鍛治方
 何寸釘
 百本ニ付金何程
 何々
 一個ニ付金何程
 塗師方

何枚	何	瓦
代金 何程	一枚ニ付金 何程	
何人	瓦 師	
賃金 何程	一人ニ付金 何程	
何人	手傳 人足	
賃金 何程	一人ニ付金 何程	
何荷	瓦	
代金 何程	一荷ニ付金 何程	
金 何程	壁 方	
内		
何坪	壁小廻張ヨリ端塗裏返シ中 塗白土上ハ塗手間諸色共 ニ坪ニ付金 何程	
但金 何程	本瓦葺棧葺何籍棟屋 根漆喰何度付 一坪ニ付金 何程	
何坪		
代金 何程		

金 何程	建 具 方
内	
何枚	長何尺 硝子板 巾何尺
但硝子障子破損遣	
代金 何程	一枚ニ付金 何程
何枚	高何尺 何石(障子) 巾何尺
但木品何々細工ノ仕方詳記スヘシ	
代金 何程	一枚ニ付金 何程
何枚	右同所繕ヒ
但何石(障子)何々取換	
代金 何程	一枚ニ付金 何程
金 何程	經 師 方
内	
何枚	高何尺 何障子 巾何尺

但張換紙粘諸色手間共

代金 何程

一枚ニ付金 何程

金 何程

疊 方

内

何 疊

何 疊

但新床針數何通何表何縁付

代金 何程

一疊ニ付金 何程

何 疊

何 疊

但古床何々表付換數入

代金 何程

一疊ニ付金 何程

金 何程

石 工 方

内

何 本

長何尺巾何寸何石
厚何寸何石

但何々ニ遣

代金 何程

一本ニ付金 何程

何 人

石 工

賃金 何程

一人ニ付金 何程

何 人

手 傳 人

賃金 何程

一人ニ付金 何程

金 何程

人 夫 方

内

何 人

大 工 手 傳

賃金 何程

一人ニ付金 何程

何 人

跡片付掃除人足

賃金 何程

一人ニ付金 何程

幾 車

何所ヨリ何所マデ
何里何々運送

賃金 何程

一車ニ付金 何程

繩苦足代丸太損料等人夫方内譯ニ記載スヘシ

金何程

材木方

丙

何本

檜何間

何寸角

但何々ニ遣

代金何程

一本ニ付金何程

何枚

巾何寸板

但何々ニ遣

代金何程

一枚ニ付金何程

何本

何寸廻リ竹

但何々ニ遣

代金何程

一本ニ付金何程

右之通出來精算相違無之候也

何所何町何職

年月日

姓名印

請負証

一金何程

諸色代諸職工人足
賃料共一式ノ費

右金員ヲ以テ何處何

修繕新營摸樣替木材
石瓦其大概ヲ記載ス

申候処實正也然ル上ハ別冊請負人保証人心得書第壹條ヨ

リ第二十六條迄ノ趣確守來ル何月何日限リ本日ヨリ晴雨

トモ幾日限無相違出來可仕候依テ御請書如件

何郡何町請負人

何之誰

何郡何町保証人

何之誰

明治何年何月何日

本部宛

營繕請負人並保証人心得書

第壹條 營繕事業入札ヲ以テ請負ヲサント欲スル者ハ

仕樣帳繪圖面現場共熟覽シテ不分明ノ廉ハ何ケ度モ尋

出不相當無之様積リ立日時限迄ニ必ス入札スヘシ若シ
 日時限ヲ後ル、者ハ入札ノ功力ヲ失フモノトス
 但官ノ都合ニヨリ開札ヲ延スコアルヘシ此場合ニ於
 テハ夫迄ニ入札セシモノヘハ其旨通達スヘシ
 第二條 開札ノ後違算若クハ見込違仕用及繪圖面誤解等
 申立ルトモ一切採用ナラサルモノトス
 第三條 開札ノ未落札ノ者ハ差圖次第仕様書ニ明細内譯
 ナ附シ保證人連印差出スヘシ
 但金五拾圓以上ノ請負高ナルルハ本條ノ書面差出ス
 ヘキ日限ノ請書ヲ出サシメ其日限ヲ經過シ尙出サ、
 サルモノハ落札取消シ百日間警察署ノ事業ニ對シ入
 札ヲ許サ、ルモクトス
 第四條 落札ノ後未約定ヲ取結ハサル前入札取消ヲ乞フ
 者ハ以後百日間警察署ノ事業ニ對シ入札ヲ許サ、ルヘ

明治十七年警甲第八號ヲ以テ改正

同上

但數廉ヲ落札シ未何レモ約定ヲ取結サル前其内ノ一
 廉取消シテ乞フキハ他ノ數廉モ落札ヲ取消尙以後入
 札ル許サ、ル本文ト同斷タルヘシ
 第五條 内譯帳調査ノ上不相當ノ高價又ハ低價ト認ルル
 ハ落札ヲ取消スコアルヘシ
 第六條 請負決定ノ上ハ翌日或ハ翌々日迄休暇日ヲ除ク
 ノ内雛形ノ如キ請負証及事業着手ノ順序經業日割共差
 出スヘシ若シ右日限内ニ請負証書不差出節ハ落札ノ功
 ナキモノトス若シ此場合ニ於テ先ノ落札人ハ第四條ノ
 通心得ヘシ
 但止ムヲ得サル事故アルカ又ハ保證人不在ニテ捺印
 間ニ不令他ニ依頼スヘキ保證人ナキ時ハ其事由書面
 ナ以申出ツヘシ然ルキハ現場至急ナラサル事ニシテ

現場差支無之申出ノ事情モ相違無之見認アルモノハ之ヲ允可スル事モアルヘシ然レトモ其期限ハ七日以内トス

第七條 金高五拾圓以上ノ落札金高ナルキハ請負金高ノ十分ノ一(則百圓ニ付十圓ノ割)ヲ以テ圓位ニ止ム(約定金トシテ現金ヲ警察署へ差出スヘシ尤落札ノ上ハ直ニ是ヲ返付スルモノトス)

但請負數廉ニテ本行ノ金高ニ滿ルキハ本條同斷タルヘシ

第八條 請負決定ノ上ハ工業上專ラ堅牢耐久ヲ旨トシ仕様書及繪圖面ニ照シ期限之通必成功ヲ遂クヘシ

第九條 内譯帳ハ綿密ニ取調フヘシ同簿ニ記載スル資用品諸色手間且ツ下ケ渡品共現場ニ資用シテ后不足増費ノ申立ハ採用セサルモノトス

但施業中諸色中間共價額變動相場高下ヲ生スルモ本條同斷タルヘシ

第十條 仕様書ニ記載スル寸間厚八分以下ノ板ヲ除ク外悉皆寸間タルヘシ

但釘類ハ勿論厚八分以下ノ板タリト正ノ文字ヲ付スルハ本條同斷ト心得ヘシ

第十一條 經業ノ際官ノ都合ニヨリ摸樣替或ハ伸縮等ノ事アル時ハ内譯帳記載ノ物品ハ先ノ價格ヲ以テ増減ス但摸樣替ニ付減品ヲ生スル節ハ當日迄場所送致ノ物品及未ダ送致セサル品ト雖モ通常賣買ニナキ品ニシテ該工業ノ爲メ注文シタル相違ナキ見認ノアル品ハ是ヲ送致セシメ買上クヘシ

第十二條 經業中ハ不斷請負人或ハ代理人相詰メ出而帳ヲ製シ各職日雇共日々人員ヲ記シ掛官ノ檢印ヲ請ケ置

クヘシ尤掛員不在ノ節ハ兼テ指揮ヲ請ケ置ヘシ
但金高百圓以内ノ請負ハ此限ニアラス

第十三條 仕様及仕口共仕様書繪圖面ニモ分明ナラサル
處ハ其事業着手前納ノ圖面等調整掛官へ何出得差圖施
業スヘシ請負人或ハ職工ノ者私斷ヲ以行フ事一切相成
ラサルモノトス

明治十六年八月二日付ヲ以テ改正

第十四條 職工賃ハ現場出而帳ノ八分通りハ願コヨリテ
下渡スヘシ追テ落成出來形檢査精算濟皆金下渡スヘシ
但現場人工目論見帳ニ超過スルモノト見認ルキハ出
而帳ノ八分ニ至ラサル賃金ヲ下渡スコアルヘシ又請
負人工ノ内幾分ヲ他人へ依頼スルキハ委任シタル旨
ヲ願出レハ聞置本行ノ順序ヲ以其者へ費金下渡ヲナ
スヘシ

第十五條 物品現所到着ノ節ハ掛へ届出檢印ヲ受代價ノ

八分通り下渡方前條同斷

但諸色手間共合併ノ受負ニシテ諸色ニ限り品取揃へ
警察署へ買上ケテ願フトハ取調ノ上皆金ヲ下渡スコ
モアルヘシ

第十六條 仕様ニ反スル工業或ハ粗惡ノ仕立方ヲナスカ
又物品寸間相違且不良品等ハ幾度ニテモ引替若クハ仕
立直シヲ申付ケ右等ノ工業ヲナシタル職人ハ直ニ放逐
スヘシ右ニ付テ幾何ノ損耗ヲ生スルモ官ニ於テ一切關
係セサル勿論トス

但經業中追テ檢査ナリカタキケ所ハ見隠ナラサル前
掛官ノ檢査ヲ乞フヘシ

第十七條 請負人怠惰ニシテ順序着手ノ期限ヲ後ル、カ
又着手ト雖モ事業遷延シテ日割ヲ經過スル等ノ時ハ保
証人ニ於テ引請施行スヘシ(此時ニ當リテハ保証人ハ即受負人ノ責ニ任ス)若シ

保證人ニ於テモ其任ヲ盡サ、ルルハ官ニ於テ職工ハ日
雇ヒ物品ハ買錫ヲ以テ差加ヘルモノトス其差加ヘタル
費金ハ請負金額ノ内ヨリ請負人保證人ノ手ヲ經ス直ニ
仕拂ヒ若シ請負金ヲ超過スルキハ約定金ヨリ同様仕拂
フヘシ

但本條官ヨリ差加エル場ニ至リテハ請負人或保證人
ハ通知スルニ止メ取計ト雖モ賃料及代價ノ高下諸色
ノ善惡等ハ一切是ヲ官ニ於テ決定シ請負人保證人ニ
於テ異存ヲ申立ルノ權ナキモノトス尤請負人若クハ
保證人ノ内日々場所相詰メ日雇職工及買上品買數代
金共承知捺印ヲ致シ置クヘシ然レモ若シ不詰合キハ其
捺印ヲ不待官ニ於テ直ニ取計ヲモノトス

第十八條 落成期限ニ至成功セサルルハ斷然請負差止警
察署ニ於テ施行ス此場合ニ至リ費金ノ仕譯方ハ請負金

ト約定金トナ合セ殘事業費ヲ差引殘金アレハ決算ノ上
下渡ス若シ不足ヲ生スルトモ約定金ヲ沒收スルニ止メ
精算帳ハ警察署ニ於テ整理シ決算ノキニ付請負人保證
人トモ事故申立ル權ナキモノトス

但工事ノ模様ニヨリ實際止ムヲ得サル場ニ至テハ延
日ノ詮議スルヲモアルハシ然レモ其日數ハ十日以内
トナ此延日ヲ算シ一日ニ付請負高ノ五百分ノ一違約
金トシテ下金ノ内ヨリ引去リ下渡スヘシ尤再延期ス
ルヲナユルサス

第十九條 事業落成シテ出來形検査皆金ヲ渡シ濟タル
後ト雖モ日數八十日間ノ内落成ノ日仕立物粗惡ノ廢發
露スルルハ前請負金ノ内ヲ以テ手直シヲナサシムヘシ
第二十條 經業中水火盜風雷震等ノ難ニ罹リ手戻リ損失
等アルモ落成引渡前ハ皆受負人ノ損耗タルヘシ

但請負人充分防禦シテ手ヲ盡シ然ルモ手ニ及ハサル等ノ實跡アル節ハ取調ノ上處置スヘシ

第廿一條 着手後ハ請負人保證人共故障アリト雖モ請負人免解ナラサルモノトシ若無據事故アリテ經業スル能ハサルハ第十八條ニヨリ處分スヘシ

第廿二條 官ノ都合ニヨリ工業ヲ止ムル時ハ當日迄經業シタル事業及場所送致ノ物品トモ是ヲ買上クヘシ

但物品ハ内譯帳ノ價ニ引當各職日雇ハ日々ノ出面帳ヲ以計算スヘシ又場所内送致セサル品ト雖モ通常買買ニナキ品ニシテ事實該工業ノ爲メ注文シタル相違ナキ見認アル品ハ是ヲ送致セシメ買上ヘシ

第廿三條 官ノ都合ニヨリ着手延引テ命シ既ニ請負期限ヲ經過シタルハ願ニ據リ請負人免解スヘシト雖モ或ハ先約ノ通ニシテ請負人遂ケント望ムニ於テハ其意ニ

任セ落成期限ハ最前ノ日數ヲ以約定スヘシ

第廿四條 官ノ都合ニ據リ中止テ命シ請負期限ヲ經過スルモ着手セサルハ殘事業免解ヲ願フニ於テハ是ヲ解キ

第廿二條ノ通處分スヘシ其免解ヲ望マス先約ノ通ニシテ請負人遂ケント欲スルハ其意ニ任セ期限ハ工業殘日數ヲ以テスヘシト雖モ現場都合ニヨリ伸縮シテ更ニ成功期限ヲ約定スルコトアルヘシ

第廿五條 請負人保證人共死亡等ノ節ハ第十八條末項ノ通り處分スヘシ然レトモ其約定金ハ悉皆下戻スモノトス

但該後繼戸主或ハ其縁者ニシテ殘事業ヲ成功セント欲スルハ其情願ニ任スヘシ

第廿六條 保證人ハ當地ノ營業ニ係ルモノハ可成津内及近傍ノ者又他所ノ建築ニ係ルモノハ可成其町村内及該

地近傍ノ者ヲ撰ムヘシ

但保證人身元不相當ト見認ムル時ハ其人ヲ變更セシムヘシ然レモ猶相當ノ保證人ヲ出サ、ルコ於テハ落札取消スヲアルヘシ

請負金高拾圓未滿ハ 保證人ニ不及

同 拾圓以上 保證人一名以上

右之條々可相守者也

右請負人並保證人心得書第一條ヨリ第廿六條迄確守可仕候依テ捺印仕候以上

年月日

○三重縣訓令第六百六號 明治二十年五月十七日

郡役所
縣立學校
病院

諸建築修繕執行方法順序二十年以降別冊之通改正ス

但請負規則ハ追テ主務課ヨリ送附ス

別冊

諸建築修繕執行方法順序

第壹條 縣廳舍警察廳舍縣監獄建築修繕ハ各主務ノ部課

ニ於テ實地驗査ノ上仕様及繪圖面ヲ(圖面ヲ要セサルモ

ノハ仕様ノミ)調整シ知事ノ裁定ヲ得入札人ニ其仕様帳

並請負規則ヲ示シ然ル後公入札コ付シ請負人ヲ定メ該

規則ニ依リ施行スルモノトス

但開札ノ上價格不相當或ハ急施ヲ要スルモノ又ハ工

業ニ據リ便宜ト認ムル者ハ請負規則第一條但書ニ據

リ取扱フモノトス

第二條 入札者豫メ入札日限ト開札日限トヲ定メ之ヲ公

告若クハ揭示ス

但シ入札三通以上ニ充ザル時ハ開札日限ヲ伸スカ或
 ハ見積ヲ以テ請負ヲ命スルトモアルヘシ
 第三條 郡廳舎建築修繕ハ郡役所ニ於テ入札ニ付シ縣廳
 エ伺出指令ヲ得テ執行スルモノトス
 但書(第一條但書ニ全シ)
 第四條 勸業ニ係ル家屋縣立學校縣立病院縣會議場ノ
 築修繕ハ第二部第五課ニ於テ取扱フモノトス
 第五條 豫算額内各費目共些少ノ工事則チ金高拾圓未満
 ハ各所ニ限リ施業スヘシ
 第六條 事業實施中止ムベカラサル工事ノ増減ヲ生シ時
 日猶豫ナシガタキモノハ豫算額ヲ目途トシ直ニ執行ス
 ルトアルベシ
 但右所ニ於テモ全様ナリト雖モ其次第速カニ具狀ス
 ルモノトス

第七條 天災地變等ノ爲メ急破出來各廳署監獄校院ニ於
 テ直ニ假修繕又取片付等暫時モ猶豫ナシカダキ分ニ限
 リ着手シ其次第ハ迅速縣廳ヘ報道シ后詳細ノ取調書ヲ
 差出スベシ

第八條 建築修繕落成ノ上精算帳ニヨリ出來形ヲ檢査シ
 精算帳調査濟ノ上皆金下渡スモノトス

第九條 郡廳舎監獄ノ營繕ハ各所ニ於テ施業シ落成ノ上
 精算帳ヲ郡役所ハ縣廳ニ監獄ハ各主務員之ヲ調査スル
 モノトス

但事業ノ難易輕重ヲ圖リ主務課員ヲシテ出張檢査セ
 シムルコトアルベシ

第十條 勸業ニ係ル家屋縣立學校縣立病院縣會議場ノ營
 繕ハ第二部第五課警察署ノ營繕ハ警察本部各監獄ノ營
 繕ハ第二部第四課ノ管掌ナリト雖モ各所ニ於テモ一人

明治二十年警規第十五號ヲ以テ正

若クハ二人ヲシテ之レカ事務ヲ取扱ハシムルモノトス
 尤モ精算帳ハ警察ハ其本部監獄ハ第三部第四課其他ハ
 總テ第二部第五課ニ於テ調査シ費金下渡ノ順序ヲ爲ス
 ハ各主務部課ノ主擔トス
 第十二條 施行中内金下渡シテ請フモノアルハ請負規
 則ノ通下金ヲナスモノトス
 第十三條 古木竹石ノ類ハ廣ク入札ヲ以テ拂下ケルモノ
 トス
 恒天札望入無之ハ見積代價ヲ以テ拂下グルコトアル
 八ノシ

◎會計ニ關スル雜件
 ○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニアリ)
 第五拾八項 警察署分署豫備金ハ左ノ如シ

警察署

金 五拾圓

但津四日市山田關上野ノ五ヶ所ハ別ニ金三拾圓
 ナ増備シ尾鷲木ノ本ハ金貳拾圓ヲ増備ス
 分 署 金 拾 五 圓

明治十八年警規第四號ヲ以テメ正全
十九年警規第二十二號ヲ以テ追加

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニアリ)
 第六拾四項 費用支拂區分之事
 一 警察遞傳ヲ以テ護送スル未決囚ノ費用ハ警察費ヨ
 リ支辨ス其已決囚ノ費用ハ監獄費ニ屬ス
 一 前項付添巡查旅費ハ囚徒種類ニ不拘總テ警察費ヨ
 リ支辨シ醫師繩取不寝番等ノ費用ハ未決囚ナレハ
 警察費已決囚ナレハ監獄費ニ屬ス
 一 拘留ノ刑ニ處セラレタル者便宜警察留置場ニ拘留
 セシキノ費用ハ監獄費ニ屬ス
 但ニ食賄額ハ留置人同様仕賄フヘシ

明治十九年訓令第十九號ヲ以テ改正

- 一 警察留場ニ一時拘禁スル重輕罪犯被告人ニ係ル費用ハ拘留狀ヲ發スル以前ト警察費ヨリ支辨シ其令狀ヲ發シタル以後ハ監獄費ニ屬ス
- 一 監獄費ニ屬スル費用ハ警察署豫備金ノ内ヨリ一時繰替置キ追テ監獄本署ヘ照會ノ上操戻ヲナスヘシ
- 但他府縣ノ費用ニ可取立者ハ警察本部ニ請求スル者トス
- 一 探偵雁ヲシテ令狀執行之爲メ派出セシメタル節ノ旅費ハ警察署ヨリ支辨ス
- 一 交番所在勤巡查ノ旅費支給方ハ所轄警察署ノ部内外ヲ以テ區分スル者トス
- 一 陸軍々法會議又ハ營所等ヨリ依頼ニ據リ警察遞傳ヲ以テ護送スル囚人費用并ニ護送者旅費ハ別途可下渡候條都度請求スヘシ

明治十七年警規第十三號ニテ改正

明治十八年警規第四十號ニテ改正

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニアリ)

第六拾五項 刑事ニ付警察官ノ處分ニ屬スル醫師鑑定人証人旅費ハ明治十七年三月内務省乙第十八號達ニ據リ警察費ヨリ支弁スヘシ

但豫審判事ノ囑托ヲ受ケ豫審處分ヲ爲シタル場合ニ於テ要スル鑑定人証人旅費日當ハ明治十五年六月司法省丙第貳拾五號達ニ照準立替渡ヲ爲スニ不
及本人ヨリノ請求書ヲ徴シ一件書類ト共ニ裁判所ニ送付スル者トス

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニアリ)

第六拾七項 警察署爲換方命令書ハ明治十五年六月本縣乙第百七號達ニ據リ警部長ニ伺出ヘシ

○明治十六年警規第十五號達(本文ハ雜部ニアリ)

第七拾貳項 郵便遞送人并ニ集配人郵便物遞送集配ノ途中重罪輕罪ヲ犯シ又ハ嘗テ重罪輕罪ヲ犯シタルニ依リ之ヲ逮捕若クハ引致セントスル場合ニ於テハ速カニ代夫ヲ雇ヒ其遞送人ノ携帶セル郵便物ハ最寄郵便局迄遞送セシメ其集配人ノ携帶セル郵便物ハ所轄郵便局へ送達セシメ其費用ハ別途本部ニ請求スヘシ

○乙第十九號 明治十六年二月十日

- 各 本 署
- 郡 役 所
- 各縣立學校
- 病 院

命令書ヲ下付シタル爲換方ハ客年十二月第五十七號公布爲換手形約束手形條例第一章第一節第四條ニ據ルニ及ハサル儀ト可相心得此旨相達候事

○乙第六十六號 明治十七年三月二十一日

- 本 署
- 郡 役 所
- 縣立學校
- 病 院

諸公文書郵送之節ハ量目調査周密注意スヘキハ勿論ニ付差違等ハ無之筈ニ候得共若シ前拂不足スルトキハ其不足税及ヒ増税トモ郵書受取先ノ廳衙ニ於テ仕拂ニ可相立此旨相達候事

○警第七號 明治十八年一月廿三日

警 察 署

警察署留置場ニ拘禁スル重罪輕罪被告人費用ハ拘留狀ヲ發スル前後ヲ以テ警察監獄兩署區分ノ筈ニ付テハ監獄費ニ屬スル分ハ最寄監獄支署へ請求方平松副典獄ヨリ照會

ノ次第モ候條爾來右費用ハ該署津久居松坂白子關ハ津支
〜山日鳥羽相可尾慈木本ハ山田支署〜上野名張ハ上野支署
〜四日市桑名南大社ハ四日市支署〜ハ請求スル儀ト心得
ハシ此旨相達候事

○警規第貳拾號 明治十八年三月廿三日

警察署

凡ソ警察署ノ取扱ニ係ル罪囚ト留置中ト護送中ト疾病ノハ醫
ノ診斷ニ因ルト雖凡通常賄費定額一泊何拾錢又ハ一飯何
以外ノ金ヲ以テ滋養物等ヲ購求シ與ヘザル様致スニク此
旨相達候事

但賄費定額内ト雖凡常食ヲ與ヘタル外ニ滋養物ヲ購求
シ與フ可カラズ

○乙第六十八號 明治十八年六月十日

本署

郡役所

縣立學校

縣立病院

各所爲替方命令書案別冊之通改正候條此旨相達候事

但是迄命令濟ニ係ル十七年度命令書中本達ニ抵觸之條
項ハ速ニ訂正スヘシ尤モ十八年度分ハ本月廿日限リ命
令案ヲ具シ伺出スヘシ

(別冊)

命令書案

何府縣管下何國何郡何町村何番地

何々銀行

右當某所爲換方ヲ命シ金錢鑑定并納拂ヲ爲取扱候ニ付
諸規則左ニ

第一條

一爲換方ハ當縣下(或ハ何府縣管下)何國何郡何町村何番地本店ヲ

根據トシ何府縣管下何國何郡何町村何番地支店支店ニ於テ取扱ヲ要セル各所ハ本店ノ下ヲノ字ニ於テ當某所ヘ領收ヨリ支店マテノ廿三字ヲ除クスヘキ金錢ノ鑑定及經費ノ受拂ニ係ル金錢ノ取扱ヲナサシムルニ付誠實ニ之レヲ勤ムヘシ

第二條

一當某所ヘ收納スル金錢ハ總テ爲換方ノ詰所ニ於テ眞價鑑定ノ上之ヲ請取其員數事由及納主ノ姓名等ヲ記載セシ預リ切符ヲ納主ヘ渡ス納主ハ此預リ切符ニ納證書ヲ添ヘ主務ノ掛ヘ持參シ上納ソ手續ヲナスヘシ而シテ爲換方ハ甲乙ノ兩帳簿ヲ設ケ置キ

甲 某所金錢預ケ帳 乙 爲換方金錢預リ帳

其金員等ヲ兩帳簿ヘ一樣ニ登記シ爲換方証印ノ上某長之レニ割印シ最前ノ切符ハ爲換方ヘ下渡シ甲ハ當某所ヘ領受シ乙ハ爲換方ヘ下付スヘシ

第三條

一當某所ヨリ諸方ヘ渡金ハ豫テ當某所ニ設ケアル切符地紙ニ渡金ノ員數等ヲ記載シ甲號切符ヲ受取主ニ渡シ乙號切符ヲ爲換方ヘ渡ス受取主甲號切符ヲ持參スレハ爲換方ニ於テハ其印鑑及乙號切符ニ照ラシテ後現金ト交換スヘシ而シテ此拂金ハ爲換方ヘ預ケ金ノ内當某所ヘ受出スモノナレハ是亦甲乙二帳簿ヲ設ケ置

甲 當某所 金錢受取帳

乙 爲換方 金錢上納帳

其金員等ヲ兩帳簿ヘ一樣ニ登記シ證印割印等總テ前條ノ式ヲ了ヘ現金渡濟ノ切符ハ甲乙號トモ其表面ニ渡濟ノ印ヲ捺シ即日當某所ヘ仕拂高ノ報告ヲナスヘシ但爲換方ヨリ當某所ヘ受出スルモ此手續ニ從フヘシ

第四條

一預ケ金ハ毎日受拂ノ計算ヲナシ預リ帳ト上納帳トヲ照
査シ殘金ノ取調ヲナシ計表ヲ作り即日之ヲ當某所へ差
出スヘシ

第五條

一毎月一兩度又ハ當某所ノ都合ニヨリ臨時検査員ヲ派出
シ預ケ金ニ關スル諸帳簿ノ記載方出納ノ順序及金錢在
高等ヲ精算スヘクニ付帳簿上錯雜ナキ様常々注意スヘ
シ

第六條

一爲換方ニ於テ取扱ラヘキ各貨幣ノ内紙包ニスヘキ者ハ
其雛形並一種ノ封印ヲ刻シ置キ當某所預金ニ限リ此印
ヲ用ユル爲メ印面中隱微シ標信ヲ付シ右印影兼テ當某
所へ差出シ置キ且封緘上ニ記載スル年月日及改人包人
ノ姓名印鑑能ク其位置ヲ定メ置キ豫メ價封ノ患ヲ防

クフニ注意シ必ス異様ノ封緘ヲナスヘカラズ

但當某所ノ外本文封緘ノ儘受渡ヲナスヲ許サス然レ
モ受取主ニ於テ之ヲ信用シ其儘受取ハ格別ナリトス

第七條

一改濟金錢ノ内若シ贖金或ハ不足金アルモハ其贖金不足
金ハ爲換方ニ於テ弁償スヘシ

明治十八年乙第百六號ヲ以テ改正

但其贖金不足金古金銀ナルトキハ明治十八年七月第
百三號大藏省告示舊金銀貨價格表ニ照シ通貨ヲ以テ
上納スヘシ

第八條

一爲換方ニ於テハ儲ナル名代人ヲ撰ミ其者ノ印鑑并ニ金
錢出納ニ用ユル印影類ハ總テ當某所へ差出シ置クヘシ
然ル上ハ當某所ニ於テ右印鑑ヲ證憑トシテ受渡ヲナス
ヘシ若シ右ノ者預ケ金ヲ引負スルカ又ハ其他ノ不都合

アレハ其責ハ全ク本店ニ歸シ不足金ハ勿論右ヨリ生スル損失ハ總テ本店ヨリ弁償スヘシ

但當某所長并ニ主任者其外出納ニ關スル印鑑ハ爲換方ニ下付スヘシ

第九條

一 盜難又ハ水火難等アリテ預金并ニ爲換金ヲ紛失スルモ總テ本店ノ請負タルヘシ

但非常ノ變災ニシテ防禦スヘカラサルノ證アルルハ是限リニ非ス

第十條

一 當廳(病院ハ)預ケ金ニ對シ抵當トシテ公債證書ヲ成規ノ手續ヲ經テ差出シ置クヘシ

第十一條

一 預金ハ常ニ金何千圓ヲ以テ極度トス故ニ前條ニ據リ右

全額ノ抵當品ニ明細書ヲ添ヘ當某所ヘ差出シ置クヘシ然レモ此預ケ金極度ヨリ増減スルルハ抵當品モ亦隨テ増減スヘシ

但預金極度ヨリ増加シ増抵當品差出シ難キトキハ其増加ノ金員一時當某所ヘ引揚シヘシ

第十二條

一 預ケ金ハ爲換方ニ於テ自己ニ融通運用スルヲ許サス

第十三條

一 爲換方ニ於テ若シ預ケ金ヲ引負スルヲアルトキハ兼テ差出シ置キタル抵當品ヲ差押ヘ速ニ弁償ノ手續ヲナサノムルハ勿論其引負ニ於テ生スル損分モ悉皆弁償セシムヘシ

第十四條

一 爲換方ニ於テハ金錢ノ受拂并ニ預ケ金爲換金ノ保險ヲ

ナサシムルタメ一ケ年何百圓ノ割ヲ以テ九月三月十八年度ハ十二月三月兩度ニ下付スベシ且人民ヨリ上納スル金トスベシ
錢ハ納主ヨリ改貨及包貨トシテ其金高千分ノ一ヲ領収スルヲ許ス病院監獄署警察署各學校ハ且ツ人民ヨリ之ニ依リ當某所へ出張セシムル手代ノ給料及旅費等ハ別段給與セサルヘシ

但本文金員ハ申付タル目及約定満期ノ日ハ一ケ年分ノ月割ヲ以テ現日數ニ割合支給スヘシ

第十五條

一各地方へ爲換ヲ命シタルハ無期限ノ分ハ送金手形該地へ到着后何日二日又ハ三日適宜ニ定ムヘシ限リ相納ムヘシ右手數料ハ有期限無期限トモ一口金百圓未滿ハ遠近ニ拘ハラズ金壹錢ヲ下渡スヘシ又一ト口滿百圓以上百圓ニ付一里以上端里數ハ金壹錢五厘拾里以上拾里毎ニ金何錢貳錢ヨリ

貳錢五厘マテ目ト定メ毎年六月十二月十八年度ハ三月十二月ニ拂渡スヘシ

但本文爲換金平常預ケ金ノ外別段下渡候節第十條抵當品増減ノ制限ヨリ超過セル金員ハ更ニ抵當品ヲ差出スヘシ若シ抵當品差出シ難キトキハ當某所ノ都合ニヨリ便宜ノ處分方ヲナスヘシ

第十六條

一此命令ハ明治年月日ヨリ滿一ケ年十八年度ハ滿九ヶ月ヲ以テ限トス満期ニ至レハ預ケ金ノ決算ヲ爲シ有餘ノ金ハ悉皆上納スヘシ

但年限中ト雖モ若シ事故アルルハ何時ニテモ放免シ預金ノ決算ヲナサシムヘシ

右之條々堅ク遵守可致事

年號月日

某署長 苗字名印

御請書

今般當某所爲換方被仰付前書御下命ノ趣逐一奉畏候就
テハ手代末々ニ至ル迄嚴重申付決シテ違背仕間敷候依
テ御請申上候也

何銀行頭取

年號月日

何之 誰印

某所長苗字名殿

何國何郡何所何番地

某銀行

右當某所ヨリ各地へ遞送スル通貨ノ運送方ヲ命スルニ
付其現則左ニ

第一條 當某所ヨリ通貨ヲ各地へ遞送スルニハ通常金員
拂出ノ順序ニ從ヒ拂出切符ヲ作り該切符甲號切符ヲ云
フヲ爲換方へ交付ス爲換方ニ於テハ假受領証書ヲ差出

スベシ

第二條 前條ノ金員ヲ爲換方へ交付シタルルハ當某所ヨ
リ其金額并事由及其爲換方ヨリ該金員ヲ送附スヘキニ
付金員着ノ上ハ爲換方ヲ經由シ受領証書ヲ送付スヘキ
旨其送り先へ通報シ置ク者トス

第三條 爲換方ニ於テハ第一條ノ金員ヲ受領シタルルハ
即日又ハ翌日之ヲ通運會社若クハ其他ノ者ニ托シ其送
リ先へ送付スベシ

第四條 爲換方ハ前條ノ金員ヲ其送り先へ附送シタルルル
ハ其送付先ヨリ之カ受領証書ヲ徴シ速ニ當某所へ差出
シ第一條ノ假受領証書ト交換スベシ

第五條 第三條ノ金員送付ニ付テノ運送費ハ通運會社ノ
規則若クハ一定ノ價格ヲ立其價格ニヨリ當某所ヨリ之
ヲ下附スベシ

第六條 前條ノ金員送付ニ付テノ費用ハ當某所ヨリ之ヲ仕拂ト雖モ爲換方ニ於テハ之ガ仕拂書并ニ通運會社其他ヨリ徴シタル証書アルモ其証書ヲ添ヘ每一ヶ月分ヲ取繼メ之ヲ當某所ヘ差出スベシ

第七條 金員運送中紛失又ハ盜難ニ罹リタルトアルモハ通運會社ニ托セシモノハ通運會社ノ規則ニヨリ會社ヲシテ之カ弁償若シハ弁償セシムルヲ得サル等其事實ヲ取調其他ハ別ニ規程ヲ定メ置其規程ニ據リ事實ヲ取調速ニ當某所ヘ申出ツベシ

第八條 此命令ハ爲換方命令期限ニ附隨スルモノトス右之條々確守可致事

年月日

某所長

○乙第七十五號 明治十八年六月十九日

本署

郡役所
縣立學校
病院

各所經費ノ費途ノ區分十八年度以降左ノ通相定ム此旨相達候事

營繕費ニ屬スル部

竈 地盤ヨリ築 煙筒 地盤ヨリ築 爐 地盤ヨリ築
キタルモノ 地盤ヨリ築 キタルモノ

硝子燈 地盤ヘ建設 日覆 簾 窓掛 取外シテモ
付タルモノ

柵 家屋ニ取付 庭内敷砂 庭内地盤修繕

帽掛 家屋ニ取付 庭内樹木 芝草買入植付及手入刈込
ケタルモノ分

水流シ 地盤ヨリ築 庭内架橋費 周圍土居
キタルモノ

修築費 室内敷物類 庭内外溝築造費

雜給 廳費ニ屬スル部

硝子燈門 又ハ室内壁柱等ヘ取付 掃除費 庭内外屋
付自由取外シテナス分 上ノ類

明治十八年乙第七十五號以テ改正

會計門

會計ニ關スル雜件

四百三十九

溝疏浚費ノ庭内外ノ類

○警規第四十四號 明治十九年十月十六日

警察署

軍人軍屬ノ罪犯者鎖臺及憲兵本部等ヨリ護送方依頼ニ應
 シ候節護送巡查ノ旅費及ヒ途中諸費請求方ニ關シ憲兵部
 ヨリ申越ノ次第モ有之候條左ノ通心得ベシ

一 巡查旅費ハ現行郵便線路圖ノ里程ニ基キ計算シ若シ警
 察署分署ノ位置ニヨリ伸縮アラハ該圖ヨリ伸或ハ縮里
 程若干ト旅行票中へ記入スベシ

一 護送途中費仕拂證書中正當受取人ハ國郡町村名番地ヲ
 肩書スベシ

●雜部門

◎公文及印章

○庶達第五百九十三號 明治十四年四月五日

各課

警察本署

監獄本署

諸伺之義ハ焦眉之急ニ非ラザルヨリハ可成電報ヲ不用様
 可致内務卿ヨリ訓示相成候條其旨可相心得此旨相違候事
 ○庶規第三十三號 明治十五年五月十五日

各課掛

警察本署

内務大藏兩省ニ關係スル同一事件伺書差出候節兩省各別
 ニ相成候テハ取扱上區々ニ涉リ不都合不勘依テ同一ノ事
 伺兩省へ伺出候節ハ兩卿連署一紙ヲ以テ差出スベク様兩

●雜部門

公文及印章

省書記官ヨリ通牒有之候條爲必得此旨相達候事

○局達第三十八號 明治十六年四月廿日

各課

兩本署

各掛

上局錄事

内務省ニ申牒表記區別之義ニ付左記之通被相達候以來右
ニ準據可取計此旨相達候事

公文ノ洩漏受付ノ錯雜ヲ防ン爲メ左ノ通内規相設候條右
ニ準據取計可有之此旨相達候事

明治十六年四月十四日

内務卿山田顯義

三重縣令岩村定高殿

申牒表記ノ區別

一府知事縣令ヨリノ申牒重大ノ事件等必ス内務卿ノ親閱

ヲ要スヘキモノハ封筒ノ表記内務卿ヘ宛其他ハ内局書
記官ヘ宛テ事秘密ニ涉ルモノハ總テ親展ノ文字ヲ傍書
スヘシ

一尋常ノ申牒ハ従前ノ通封筒内務省宛ニ記載スヘシ

一特ニ急ヲ要スルモノ、ミ至急ノ文字ヲ傍書シ總テ通常
ノ申牒ニハ該文字ヲ用ユヘカラス

一電報モ前三項ニ准スヘシ

○第九號 明治十六年八月三日

各課

各本署

各掛

上局錄事

筆記達ノ議按ハ決議之上其寫ヲ庶務課ヘ回付スヘキ旨七
月廿五日付庶第四百九十九號ヲ以テ相達置候處已後ハ淨

寫ニ不及候條決議按ノ儘庶務課ニ回付シ該課ニ於テ發送
濟ノ上其返付ヲ受クヘキ義ト可相心得此旨相達候事

但達ニ添付スヘキ書類ハ議按中見出シテ付シ他ノ書
類ニ混セサル様可取計事

○第九拾九號 明治十六年八月十八日

各 課
各 本 署
各 掛
上局 錄 事

今般甲第七十七號ヲ以テ本縣布達施行期限相定布達候ニ
付テハ爾后違警罪其他罰則等制裁アル布達ハ其施行ノ期
日ヲ豫定シ布達按中ニ明記ノ上可伺出此旨相達候事

○警第二十三號 明治十七年二月七日

警 察 署

其署へ下渡スヘキ官報及ヒ新聞紙等不着之節其都度警察
本部第三課へ可通報云々昨年九月警規第十五號ヲ以テ相
達候處本月二日發兌官報第百七十六號廣告ノ次第モ候條
自今官報ニ限り不着之節ハ其署ヨリ直チニ驛遞局へ可申
出此旨相達候事

○第千七百四號 明治十七年九月廿四日

各 課
兩 本 署

內務大藏兩卿宛ノ電信ハ從前配達局ニ於テ內務卿へ配達
シ大藏卿へモ其寫ヲ配達致來候處其筋ニ於テハ同一事件
ヲ兩省へ各別ニ伺出候テハ取扱上區々ニ相成不都合不勘
旨兼テ通牒有之候ニ付一紙ニテ兩卿宛ノ分ハ其内ノ一方
へ配達相成度旨電信局長へ更ニ照會及ヒ候處別紙之通回
答有之候ニ付自今兩卿宛ノ分ハ兩卿宛ノ肩へ一方ノ省名

ヲ記入シ發送方可取計此旨相達候事

(別紙)

内務大藏其他兩卿宛ノ電報各通配達相成候テハ取扱上區々ニ相成不都合ニ付云々本月十一日會用第五十七號ヲ以テ御照會之趣キ了承右ハ津分局ヨリ及御通知候通居所ヲ異ニスル二名以上ノ受信人ハ宛テタル連名電報ハ電信取扱規則第五編第七章ニ據リ各通配達ヲ爲シ賸寫料収納可致ハ勿論内務大藏兩卿宛ニテ特ニ何レモ居所記載ナキ電報ノ如キハ内務大藏兩省ノ宛所アルモノト見認メ右規則ニ照準可取扱等ニ有之候尤兩卿ノ内モ何レカ一方ハ配達致シ御差支無之分ハ配達スヘキ一方ノ居所(仮令ハ内務省藏卿又ハ大藏省ニテ大)御記載御發信相成度左スレハ同規則同篇同章第七節ニ準據其内ノ一名ハ通署ニテ配達可致候條右様御承知相成度此段御回答候也

十七年九月十六日

電信局長石井忠亮印

三重縣令内海忠勝殿

○第千九百五拾八號 明治十七年十一月六日

各課
本署

大藏書記官ヨリ別紙ノ通照會有之候條爾來同省各局長ハ差出ス文書ハ渾テ主務課ニ於テ封筒ニ入發送ノ手續ヲナスヘシ此旨相達候事

○受押第二七七號

從來大藏卿へ上申ニ係ル文書ト各局長宛ノ文書ト多クハ一封ノ内ニ數件混同シテ御差出シ相成來候處右ハ取扱上都合モ有之候間自今前顯ノ文書合封ニテ御差出ノ節ハ各局長宛ノ文書ハ別封相成候様致度此段及御照會候也

明治十七年十月廿八日

大藏書記官

●雜部門

公文及印章

内海三重縣合殿

○第二千三百五十二號 明治十八年一月十六日

各課

警察本署

官省其他進達書類中違算若クハ誤字脱漏其他地種地目ノ
變換ニ際シ反別ノ誤謬往々有之爲メニ官省ノ照會ヲ要ス
ルモツ不鮮候條右ハ文書往復ノ手數ヲ煩ス而已ナラズ堂
廳ノ体面ニ關係致シ候ニ付爾來一層注意ヲ加ヘ不都合無
之様精々可取討此旨相達候事

○警規第三十九號 明治十八年七月卅一日

警察署

從來國事外ノ件ト雖モ其事ノ秘密ヲ要スルモノハ總テ國
秘號ヲ以テ相達來リ候處爾來右等ノ達往復ハ左ノ符合ヲ
用ヒ候條此旨爲心得相達候事

内達々符號

一國事外ノ件ニテ秘密ヲ要スル達ニハ内第號ノ符ヲ用ユ
一同上ニ付テノ往復ニハ内往第號符號ヲ用ユ

○第九百三十三號 明治十八年十二月十七日

各課本署及郡役所事務處理方ヲ檢察スル爲メ揭札ヲ上局
ニ具ヘ稟議并ニ期限アル進達事目等ヲ登錄シ變換ノ都度
加除候ニ付テハ該取扱手續キ左ノ通相定ム
右相達候事

揭札取扱手續

- 第一條 上局揭札ニ登錄スル事項ヲ定ム左ノ如シ
- 一縣廳ヨリ各官省へ進達期限アル件
- 一各郡役所ヨリ縣廳へ進達期限アル件
- 一各官省へ稟議セシ件
- 一各官省ヨリ逐テ規則手續等達スヘキ令達アリシ件

第三條 第一條各款ニ係ル事件ハ主務課署ニ於テ無漏取
調第一款第二款ニ屬スルモノハ一ケ年分テ纏メ前年十
二月二十五日限リ第三款第四款ニ屬スルモノハ發行ノ
都度年月日期限アルモノハ期限ノ年事目及ヒ術名ヲ詳
記シ往復掛ヘ通知スヘシ

但臨時期限アル事件ヲ生シルハ本條ニ據リ其時々
通知スルモノトス

第三條 往復掛ニ於テハ各課署ノ通知ヲ得テ期限ニ係ル
モノハ毎月首其他ハ通知ノ都度掲札ニ登録スヘシ

第四條 各課署ニ於テハ前條通知セシ事件進達済或ハ指
令アルカ規則手續等達セラレ結了スルルハ直ニ往復掛
ヘ通知シ同掛ニ於テハ速ニ掲札ニ就キ該件取消ノ手續
ヲナスヘシ

第五條 各課署ニ於テ通知方法ハ豫テ往復掛ヘ協議シ便

各郡役所ヨリ明治 年 月進達期限經過セシ事件數調表

種別	期限經過			經過件下 合計度	戻督 度	促 數	郡役所名
	十日以内	同十一日以上 同廿一日以内	同廿一日以上				
期限後完結							桑名郡役所
期限後進達							
全上不整備ノモノ							員辨郡役所
期限後完結							
期限後進達							三重朝明郡役所
全上不整備ノモノ							
期限後完結							鈴鹿郡役所
期限後進達							
全上不整備ノモノ							奄藝河曲郡役所
期限後完結							
期限後進達							安濃郡役所
全上不整備ノモノ							
期限後完結							一志郡役所
期限後進達							
全上不整備ノモノ							飯高飯野郡役所
期限後完結							
期限後進達							多氣郡役所
全上不整備ノモノ							
期限後完結							度會郡役所
期限後進達							
全上不整備ノモノ							阿拜山田郡役所
期限後完結							
期限後進達							名張伊賀郡役所
全上不整備ノモノ							
期限後完結							荅志英虞郡役所
期限後進達							
全上不整備ノモノ							北牟婁郡役所
期限後完結							
期限後進達							南牟婁郡役所
全上不整備ノモノ							

備考

一表中(期限後完結)ノ欄ニハ期限内進達セシモノ書面不整備ノ爲メ往復ノ末期限后ニ至リ完結セシモノ、件數ヲ掲ク(同上不整備ノ者)ノ欄ニハ期限ヲ過キ去リ進達シ尙不整備ノ廉アリ再調等ヲ要セシ件數ヲ掲ク

一表中下戻督促等ノ度數ハ期限ヲ經過セシ文書ニ對スル度數ヲ掲ク

宜之ヲ定ムルモノトス

○第四拾九號 明治十九年二月十九日

各課
本署

從來官省布告布達達告示等増刷配付致來候處右相廢シ爾來官報ヲ以テ配付スヘシ
右相達候事

○三重縣令第一號 明治十九年九月十三日

三重縣公文例左ノ通相定ム

但明治十五年五月甲第百壹號布達同十六年八月甲第七十七號布達同十八年八月甲第七十七號布達同十九年五月甲第四拾八號布達ハ自今廢止ス

公文種別

一管内一般若クハ其一部ニ對シ布達スルモノヲ縣令トス

一 郡役所警察署戸長役場縣立學校病院公立小學校并學校
 教員勸業委員等ニ達スルモノヲ訓令トス
 一 管内一般若クハ其一部ニ公示スルモノヲ告示トシ諭示
 スルモノヲ諭告トス
 一 學務衛生勸業等ノ事項ニ付一般人民ノ注意ヲ促カスモ
 ノヲ報告トシ縣名ヲ以テ之ヲ發ス

公布式

一 毎週火曜金曜ノ兩日ニ於テ三重縣公報ヲ發行シ縣令訓
 令告示報告等ハ公報ニ登載スルヲ以テ公式トス
 但緊急ニ屬スルモノハ號外ヲ以テ之ヲ發行ス

施行期限

一 縣令訓令ハ郡役所へ到達ノ翌日ヨリ七日ヲ以テ施行ノ
 期限トス
 但縣令訓令ノ特ニ急施ヲ要シ即日ヨリ施行スルモノ

明治二十年縣令第三十六號ヲ以テ改正

及特ニ施行ノ期限ヲ掲ケタルモノハ本文ノ限ニアラ
 ズ

到達日數

一 縣令訓令ノ各郡役所へ到達スヘキ日限ヲ定ムルヲ左ノ
 如シ

但天災時變等ニ因リ日限内ニ到達セサルハ其到達
 ノ翌日ヨリ起算ス

桑名郡	三日	員弁郡	三日
三重朝明郡	二日	鈴鹿郡	二日
奄藝河曲郡	二日	安濃郡	一日
一志郡	二日	飯高飯野郡	二日
多氣郡	二日	度會郡	二日
阿拜山田郡	三日	名張伊賀郡	四日
英虞若志郡	二日	北牟婁郡	三日

南牟婁郡 四日

○警規第五十六號 明治十九年十二月二十七日

四日市警察署

四日市梅毒病院ヨリ本部へ進達スヘキ文書ハ其署へ差出スヘキ旨相達候條調査ノ上意見アルモノハ添書シ特ニ至急ヲ要スルモノ、外之ヲ月經メトシ翌月五日限り差出スヘシ

○警規第五十五號 明治十九年十二月廿七日

四日市梅毒病院

本部ニ進達スル文書ハ總テ院所在ノ警察署ニ差出スヘシ
○警規第十號 明治廿年三月十八日

山田 尾鷲
上野 梅毒病院

本部ニ進達スル文書ハ總テ院所在地ノ警察署ニ差出スヘシ

○警規第十一號 明治廿年三月十八日

山田 尾鷲
上野 警察署

山田尾鷲 梅毒病院ヨリ本部へ進達スヘキ文書ハ其署へ差出スヘキ旨相達候條調査ノ上意見アルモノハ添書シ特ニ至急ヲ要スルモノ、外ハ之ヲ月經メトシ翌月五日限り差出スヘシ

○令第拾六號 明治廿年四月八日

各部

三重縣公報編纂手續左ノ通相定ム

第一條 公報ハ左ノ事項ヲ掲載ス

一官内一般又ハ一部ニ發スル縣令訓令告示報告

但筆記ヲ要スル縣令訓令ハ従前ノ通

一縣令訓令等ノ參照正誤郡長戸長等ノ伺指令及各部各

課ヘノ問合回答

一官吏並縣立學校職員ノ任免其他ノ諸辭令及本廳官吏ノ着發等

一廣告

第二條 公報ハ第一部第一課ニ於テ編纂ス

第三條 各都各課ニ於テ公報ニ掲載ヲ要スル事項ト認ムル分ハ立案ノ際青紙ヲ欄外ニ貼付シ決議ノ上一般ノ手續ニ依リ報告用紙ニ淨寫シ第一部第一課ニ送附スヘシ

但縣令訓令等ニシテ參照ヲ要スルモノハ其全文又ハ摘要ヲ添付スヘシ

第四條 縣令訓令等ノ内特ニ緊急ニシテ即日發行ヲ要スヘキモノハ其事由ヲ付記シ送附スヘシ

第五條 第一部第一課ニ於テハ編輯ノ都合ニヨリ各部課ヨリ送付ノ事項中后号ニ登載スヘキモノ及登載ニ及ハサル認アルモノヲ取調上局ハ決裁ヲ請フヘシ

○令第三十七號 明治二十年六月十六日

各部

各郡役所ヨリ進達ノ文書期限經過セシ件數取調ヘ其時々各郡役所ヘ頒布爲致來候處爾來一層精密ヲ要スル爲メ別表ノ通り類別シ事務ノ敏捷ヲ期シ候條縣廳ニ於テモ料書調査ノ義ハ主課受付ノ日ヨリ直ニ審査ヲ遂ケヌ不整備ノモノト認ムルモノハ五日以内ニ返付或ハ打合等ノ處分ヲナスヘシ

但五日以内ニ處辨シ難キ事件ハ主課ニ於テ豫メ期日ヲ定メ上申致シ置クヘシ

●無 號 明治十七年三月廿四日

警察本部各部

官報親展電報領收ノ義ニ付別紙之通津電信分局へ通知候條爲心得此旨相達候事

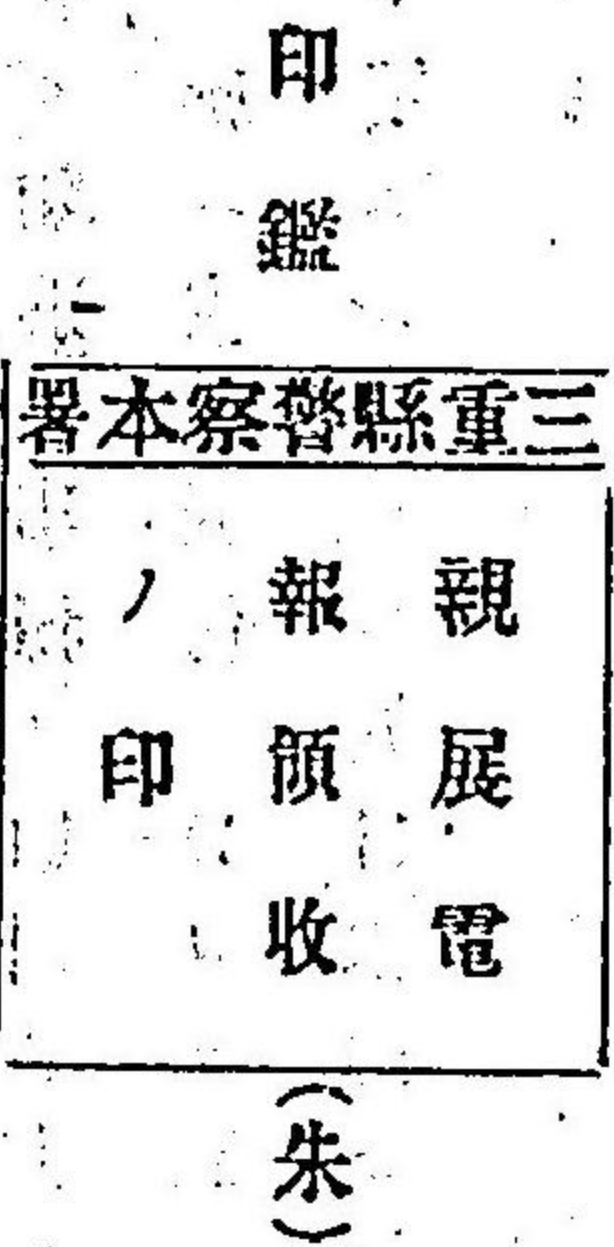
(別紙)

警乙往第四百一號 明治十七年三月廿四日

自今官報親展電報到達シタルハ領收書ニ左ノ印章ヲ押捺シ取扱人其印ノ傍ニ檢印候條此段御通知及ヒ候也

警察本署

津電信分局御中



◎願伺届

○天乙第十一號 明治九年五月十六日

一志以南諸郡

志願全國在婁平郡

諸願伺書之内事柄ニ寄り副書差出ニ不及旨舊管廳ヨリ區戸長へ相達候次第モ有之候處今後願伺之分ハ總テ正副ニ通差出可申此旨布達候事

○天乙第六十號南 明治九年八月廿五日

自今人民ヨリ差出候諸申牒員數ニ關係アル分一二十ノ文字ハ壹貳拾ノ字体可相用此旨布達候事

但

○天甲第五拾壹號 明治九年九月廿三日

諸願伺届ヲ始証據トナルヘキ書類ノ内自身姓名ノ文字藤東宗總次治郎良等ノ如キ音通ニ因リ勝手ニ相認候向往々有之不都合之事ニ候條今後屹度相心得一切戸籍面ニ相違セサル様署記可致此旨布達候事

○天甲第七號 明治十年七月十八日

明治十一年天甲第八號ヲ以テ删除

●雜部門

願伺届

從前各警察署ヲ經テ差出ス諸願何屆等自今所屬警察分署
ヲ經テ差出申可此旨布達候事

○天乙第四拾五號南 明治十九年九月十二日
○天第百壹號北

縣下人民一般ヨリ差出候諸願何等ノ内再願再伺ノ節先般
願置或過日伺出又ハ指令坏ト書載致候輩モ間々有之右ハ
照查ニ便ナラス候條自今再願再伺ノ節ハ必ス最前ノ願伺
或ハ指令ノ年月日及其要旨等ヲ記載可致此旨布達候事

○甲第六號 明治十二年二月八日

郡役所開廳ノ上諸願何屆差出方ノ義左ノ通可相心得此旨
布達候事

明治十二年甲第百廿九號ヲ以改正

一縣令宛ニテ差出ズ者モ郡役所ヲ經由スヘシ
一郡長掌管ノ條件ニ係ル者ハ郡長宛ニテ差出スヘシ但左
ノ條件ハ縣令宛トス

徵兵取調ノ事

河岸地借地檢査ノ事

一生死出入等戶籍而加除ニ關スル屆ハ戶長宛ニテ差出ス

ヘシ

一凡諸願伺ハ戶長與書印シ屆書ハ其檢印ヲ受クル從前ノ

例ニ依ルヘシ

○無 號 明治十二年九月十九日

各 課

別紙ノ通郡役所へ相達候條爲心得此旨相達候事

(別紙)

郡 役 所

凡人民ヨリ縣令宛ニテ差出願何屆郡役所經由ノ際郡長ニ
於テ意見アル分ハ其旨ヲ添書シ意見ナキ分ハ書面初葉ノ
右角ニ檢印ノ上差出スヘシ此旨相達候事

明治十二年八月二十五日

○庶達第貳千貳百四拾四號 明治十三年八月三十日

各 課

警察本署

官吏諸届書差出方往々遅刻之向モ有之不都合ニ候條自今
必ス當日午前第十時限り可差出爲念此旨相達候事
但臨時ノ分ハ此限ニアラス

○甲第三十六號 明治十三年三月十三日

從來縣令宛ニテ差出候通常願伺等ノ申牒ニ儘封書ヲ以テ
親展ノ文字ヲ題記シ又ハ至急ヲ要セサルモノニ至急ト記
載スル分モ有之取扱上不合ニ候條自今戸長役場郡役所
ヲ經由シ難キ事件ニ限り親展ヲ用ヒ刻限ヲ論スル程ノ急
速ヲ要スルモノニ限り至急ト題記シ其他ハ右等ノ文字記
載無之様可致此旨相達候事

○乙第百三十八號 明治十五年七月十九日

郡 役 所

戸 長 役 場

人民ヨリ差出ス諸願伺届等近來往々字体ノ分明ナラサル
モノアリテ文意所在ヲ知悉スルニ苦ムヨリ爲メニ無益ノ
往復ヲ重子或ハ指令遅延ニ至ル等ノ事有之候テハ官民ノ
不都合不勘ニ付示後篤ク注意シ可相成措行ノ書体ヲ用
シノ不都合ナキ様可取計此旨相達條事

心得事

○明治十六年警規第十五號達(本文雜件)

第二十項 判任官以上ノ願伺届ハ例規アルモノハ其例
規ニヨリ其他知事ノ決議處分ニ係ルモノハ(本部職務
章程ニ依リ區別ス)

知事宛警察本部長ノ權内ニ係ル者ハ警察本部長名宛

明治十七年警規第二十一號ヲ以改正

ヲ以テ差出スヘシ
○明治十六年警規第十五號達(本文雜件ニアリ)

第四拾五項 巡查御用掛伺届等ハ例規アルモノハ其例規ニ依リ其他ハ署長宛ニ認メ總テ當直監督巡查ニ差出ヘシ監督巡查ニ於テハ檢印ノ上署長ヘ差出スヘシ

○第三百拾五號 明治十七年二月廿九日

各課
本署
上局録事

諸願規則等ニ依リ人民ヨリ差出ス書面中本人ヘ直接交付スヘキモノハ主務課ニ於テ右書類ヲ糊封シ封面ニ本人ノ住所姓名等詳記本人直送ノ文字ヲ傍記シ往復ヘ交付方可取計此旨相達候事
但指令或ハ付箋却下等ノ事由ハ本縣總則第二條但書ニ

準シ往復掛ヘ通知スヘシ

○警第百九號 明治十八年八月六日

警察署

警部警部補ニシテ他ヘ出張ノ節其届出往々遅延ニ及ヒ或ハ出發届ヲ販着届ト同時ニ差出等ノ向モ有之甚タ不都合ニ候條自今出發販着共必ス各其當日ニ届出可申此旨相達候事

○甲第百七號 明治十八年十二月廿三日

今般甲第百六號布達ヲ以テ警察署以下名稱區畫等改正候ニ付テハ來ル明治十九年一月一日以后警察上ニ係ル願伺届書差出方等左ノ通心得ヘシ

前署

九警察署分署ヘノ願届書等ハ署長宛ニ認メ分署部内ノモノハ該署ヲ經テ差出スヘシ

◎處務手續

○局達第五拾號 明治十六年五月十日

各課掛
兩本署
上局錄事

近來各課署等ヨリ差出候議案書塗抹改竄ニ附シ爲ニ行文難讀下モノ往々有之候條再來挿入削除等致候節ハ筆者必ス其側ヲニ檢印可致且ツ半枚ニ全一行以上塗抹ニ係ル者及ヒ所々ノ字句ヲ修正シ爲ニ檢閱上不便ト思量スル場合ニ於テハ更ニ其議案ヲ書替ヘタル上可差出此旨相達候事
○明治十六年警規第十五號(本文ハ雜件)
第五拾項 人民呼出狀及人民喚出名簿書式左ニ相示ス
人民喚出狀書式

明治十八年警規第二十七號ヲ以テ正

呼出狀

右事件ニ付來ル 月 日午 第 時當署へ出頭可致者也

但此喚出狀ハ出頭ノ節差出スヘシ

年月日

三重縣 警察署

人民喚出名簿書式

署長	主任	事
呼出狀發		
送日時	月 日午 時	
出頭ノハ		
キ日時		
其事	件	
		住 所 氏 名

○明治十六年警甲第一號達(本文司法門)
ニ在リ

第拾九節 事務受渡

●雜部門

處務手續

第一條 署長轉免ノ節ハ舊任ニ於テ該署ニ保管スル一切ノ記録圖書器具金銭等ノ目錄書式後ニ示スヲ作リ新任ニ引渡スヘシ

第二條 現今取懸リ及ヒ先前ヨリ申送り若クハ將來見込アルモノ又ハ假渡金繰替金ニシテ戻入未済ノモノ其他出納上ニ付事故アルモノハ其事由ヲ詳細ニ項記シタル演說書ヲ添フヘシ

第三條 新任ニ於テハ目錄簿冊物件等ヲ照査シ就中出納上ニ係ル金銭物品ハ帳簿面ハ勿論之ヲ現在高ニ對照シ總テ調査上不都合ナキヲ信認シタル後引受クヘシ

第四條 引受クヘキ事件中成規ニ乖戻スル等ノ事アリテ引受ク難キキハ事由ヲ詳具シ警部長ニ伺出指揮ヲ受クヘシ

第五條 事務受渡ハ新任着署ノ後五日以内ニ相濟シ其旨

(目錄一通) 新任舊任連署ヲ以テ速ニ警察本部長ニ開申スヘシ

第六條 管轄地ノ一方分割合併等ノ節モ前條々ニ照準スヘシ

第七條 署員分署詰ノ者轉免ノ節モ前條々ニ準シ受渡シ其旨速ニ署長ニ開申スヘシ

(書式) 引繼目錄

一金 何程 有 高

内 金 何程 爲替方へ預ケ高 (爲替方ヨリ預高報告書) ヲ徴シテ付添フヘシ

金 何程 現金有高

内 譯

金 何程 警部給與費

金 何程 警察費

金 何程 探偵費

金、違警罪科料
 金、賣淫罰金
 金、官沒金
 金、豫備金
 金、何々々

以上帳簿面ト照査不都合ナシ

一消耗品 但受拂帳簿ノ面
 一備品 但臺帳ノ面
 一簿冊 但簿冊目錄帳ノ面
 一建造物 但財産調簿及圖面

以上之ヲ調査シ尙現在品ト對照不都合ナシ

右ノ通立會照査ノ上引繼及受繼候因テ此目錄ヲ作り交換候也

元何署長

官 姓 名印

何署長

官 姓 名印

年月日

○警規第四號 明治十七年一月廿九日

第一課

第二課

第三課

警察本署備付ノ書籍簿冊取扱規則別紙之通相定候條此旨相達候事

書籍簿冊取扱規則

第壹條 凡テ書籍簿冊ハ第二課ノ管掌トス

第貳條 書籍簿冊ハ目錄ヲ作り毎ニ明瞭ナラシムベシ

但書函出入ノ際錯雜ナラシムルヲ要ス

第三條 書籍ノ借用ヲ乞フモノアラハ書籍貸渡簿ニ其書

目冊數借用ノ月日借用者ノ氏名ヲ記サシメ尙ホ檢印ヲ取置クヘシ

但一時タリテ署外ノ者へ貸渡スルハ第二課長ノ許可ヲ得テ本文ノ順序ヲ踐マシムベシ

第四條 簿冊ノ借用ヲ乞フモノアルルハ前項但書ノ手續ニ依ルヘシ

但シ簿冊仮綴ノ分ハ一切署外ニ持出ヲ禁ス

第五條 返納アリタルルハ最前貸渡シタルル日ノ下ニ返納ノ月日ヲ記シ受領者檢印ヲ押捺シ返納ヲ証スヘシ

第六條 諸達等日用ノ者ヲ貸渡シタルルハ日々出廳ノ際必ス持參セシムヘシ

○警第十六號 明治十八年一月廿九日

警察署

凡テ人民ヲ呼出ス時ハ(別ニ成規アルモノハ其成規ニ從フ其本人ヲシテ呼出ヲ受クヘキ事件ヲ豫知セシムル爲メ其事件ノ要領ヲ呼出狀ニ記載候様可致此旨告達候事

○警規第五十三號 明治十八年十二月廿六日

本部

各課

記録整頓ノ都合モ有之候ニ付來ル十九年一月一日ヨリ處務上左之通心得ヘシ

一事ノ一議案ニテ結了セサルモノハ起草主任ニ於テ議案欄外ニ(決行濟主任)ト朱書シ其議案ヲ預置シ他日歸結ヲ待テ第二課ニ付スベシ

但本文ノ朱書ナキモノハ編輯後ハ取扱ヲ許サス

一布達々告示報告往復トモ番號ノ符字ハ起算主任ニ於テ記入スベシ

- 一 諸達伺指令通牒ノ公文等議案ニ付添テ要スルモノハ之ヲ抄寫スベシ決シテ原書ヲ付添スベカラス
- 但諸願伺照會書ノ指令回答ヲ要スルモノハ此限ニアラス
- 一 布告其他ノ公文ニシテ回覽ニ付スルモノハ公文檢閱所ニ差出置クヲ以テ該所ニ就テ之ヲ閱覽シ他ニ持行クベカラス
- 一 書籍諸簿冊等ヲ檢閱セントスル時ハ第二課ニ申出之ヲ請取り用濟直チニ返納スベシ
- 一 公文發送ノ時ハ記簿ノ都合有之ヲ以テ退署二時前(至急ヲ要スルモノハ退署時刻迄ニ)往復主任ニ送致スヘシ
- 但退署時刻ヲ過クレハ總テ當直ニ於テ取扱フモノトス

○令第三號 明治十九年九月十八日

各部

本廳處務細則附則別冊之通相定ム
三重縣廳處務細則附則

第一章 處務手續

- 第一條 本則ハ各部(警察本部ヲ除ク)ノ取扱ニ係ル順序ヲ定メタルモノニシテ處務細則ト參照執行スヘシ
- 第二條 諸公文ハ接受(收稅部)發送(收稅部)者ハ縣名共ニ除ク(知事名ノ者ニ限ル)共ニ
第一部第二課ニ於テ扱フモノトス若シ該課ヲ經ズル接受又ハ發送セシ書類ニシテ退廳後又ハ休暇日ニ係ル分ハ其翌日該課ニ通知シ出張先ニテ收受ノ分ハ飯廳ノ翌日之ヲ該課ニ通知スヘシ
- 第三條 第一部第二課ヨリ各部長ニ配送スル書類ハ部長查閱ノ上各課ニ配付シ之ヲ處辨セシムルモノトス
- 第四條 凡議案ハ主任ニ於テ起草シ課員課長及部長ノ檢

印ヲ受ケ其他課又ハ他部ニ合議ヲ要スルモノハ合議濟
ノ上該部長ヨリ上局ヘ差出スヘシ

第五條 凡議論數端ニ分ル、議案及上局ノ決裁ニ因リ其
主意變換スルモノハ決裁ノ後必ス前合議ノ各員ニ回示
シ議案ノ右欄外ニ檢印ヲ徴スヘシ

第六條 新聞紙ニ登載スル本縣ノ令達類ハ其決議案ヲ第
一部第二課ニテ淨寫シ右欄内初行ニ何月何日決議ノ旨
ヲ記載シ課長檢印ノ上第一部第一課ニ送付スヘシ

第七條 筆記ニ係ル訓令等ハ其決議案ヲ第一部第一課ニ
送付スヘシ第一課ニ於テハ之ヲ淨寫シ發送濟原案ハ主
課ニ還付スヘシ

第八條 議案伺諸届等上局ノ裁覽ヲ要スルモノハ退廳時
限一時前迄ニ上局ニ差出スヘシ尤モ緊急ノ事件ハ此限
リアラス

第九條 退廳後或ハ休暇日ニ當リ至急ノ事件アリテ知事
ノ官印又ハ縣印ヲ要スルトキハ其決議案ヲ當直ニ示シ
立會ノ上捺印ヲ取計フヘシ

第十條 凡官省伺届府縣其他ノ往復文書吏民ノ願伺ノ指
令文等ハ第一部第二課ニ於テ淨寫校正ノ上小印ヲ以テ
原案ト符押シ其種類ニ從ヒ各番號ヲ記シ指令文ハ番號
ヲ記サズ知事ノ印ヲ押捺シ發送スヘシ且ツ其原案ニハ
發送ノ年月日ヲ記シテ之ヲ主務者ニ還付スヘシ

但收稅部ニ係ルモノハ該部ニ於テ本文ノ手續ニ準シ
取扱フヘシ

第十一條 凡願伺等主任受付ノ日ヨリ五日間ニ辨理シ難
キモノアルトキハ其事由ヲ本紙欄外或ハ付箋ニ朱記シ
主任檢印ノ上部長ノ認印ヲ受ケ第一部第二課ニ通知ス
ヘシ

第十二條 凡吏民ノ諸申牒成規ノ文例ニ違ヒ或ハ數量等ノ違算ニ係ルモノ 其事由ヲ示シテ各部限リ下戻スヘシ其文意不明瞭或ハ事理不都合ノ廉アリテ下戻スヘキ者ハ上局ノ決裁ヲ經ヘシ

第十三條 凡各部課及郡役所警察署監獄戶長役場學校病院或ハ出張官吏等へ往復ノ文書ハ課名或ハ部名ヲ用ヒ其事ノ慎重樞機ニ涉ル者ハ課長名又ハ部長ノ名ヲ以テ取扱フモノトス

第十四條 凡吏民ノ喚徴ハ總テ知事ノ裁可ヲ受クニシ其事件重要ニ屬スルモノハ知事名ヲ用ヒ通常ノモノハ縣名或ハ部名課名ヲ用フヘシ

第十五條 各部ヨリ發送收稅部ノモノハ縣名知事名ノモノニ限ルニスル書類物品ハ電信郵便書留或ハ別配達或ハ無稅ノ譯通運便又ハ別仕立等ノ區別ヲ送付録及封面ニ

朱記シ退廳時限二時前迄ニ第一部第二課ニ送付ヘシ該課ヨリハ退廳時限一時前マテニ第二部第五課へ送附スヘシ其至急ヲ要スル分ハ退廳時限マテトシ若右時限ヲ過レハ當直ニ差出シ發送セシムヘシ

第十六條 各部ヨリ他ニ回致スル書類物品ハ豫テ送付録ヲ備ヘ置キ發送スル毎ニ其件名月日ヲ記シ受取人ノ檢印ヲ徵シ置クヘシ

第十七條 廳中ノ筆記回達等ノ類ハ謄寫ノ上部中へ回覽セシメ本紙ハ直ニ其部ノ小印及取扱タル者ノ檢印ヲ捺シテ他部ニ回送シ周尾ヨリ主部ニ返戻スヘシ

第十八條 縣廳諸門戶及押入等ノ鍵ハ當直ニテ管守シ各部戶締書籍筆筒等ノ鍵ハ其課長ニ於テ管守シ退廳ノ際當直ニ預ケ置クヘシ

但金庫及金櫃ノ鍵ハ第二部長ニ於テ之ヲ管守スヘシ

第十九條 凡應用器械ハ第二部第五課ニ於テ管掌シ各部用器械ハ每部ニ於テ管守シ豫テ器械目錄帳ヲ備ヘ置クヘシ

第二十條 各部ニ於テ管理スル金錢ト雖モ其納拂ハ第二部第五課ニ於テ總掌ス其取扱ハ其規定ニ從フヘシ

第二十一條 官吏轉免ノ節ハ其部長ニ於テ直ニ事務引繼ヲ命シ從前擔當事務ノ條款并其取扱ノ手續ヲ詳記シ該書類一同後任ノ者ヘ引渡サシムヘシ

第二十二條 判任官新任ノ者ハ五日以内ニ履歷書ヲ知事官房書記ニ宿所届チ第一部第二課ヘ並ニ雇員ヲ命セラレタルモノハ宿所届チ第一部第二課ニ差出スヘシ尤モ宿所届ハ轉寓ノ都度差出スモノトス

但履歷書式ハ知事官房書記ニ宿所届書式ハ第一部第二課ニ承合スヘシ

明治二十年五月十一日付改正

第二十三條 應用罫紙美濃紙摺ノ分ハ内閣省院(大臣院長名宛或ハ特ニ料紙ヲ示サレタルモノ)等ニ進達照會等淨寫ニ供シ半紙摺ノ分ハ諸局寮課廳ニ付縣鎮台裁判所郡役所ノ往復并ニ議案等ニ用ヰルモノトス

第二十四條 筆紙墨其他應用ノ諸品ヲ受取ラントスルカ若シハ新製ヲ要スルキハ其規程ニ從フヘシ

第二十五條 毎日退廳後及休日ハ判任官雇員各一名當直スヘシ其事務取扱方ハ第二章當直手續ニ從フヘシ

第二十六條 退廳後又ハ休日ニ昇廳スル者又ハ夜業ニ從事スル者ハ其事由ヲ部長并ニ其日ノ當直ニ告知スヘシ

第二十七條 非常ノ事件又ハ縣廳近傍ニ火災等アル時ハ各官吏即時參應スヘシ火災ノ節ハ其心得書ニ照シ處置スルヲ要ス

第二十八條 諸官吏出張歸廳病氣引届進退伺歸省願受書

等ハ總テ實印ヲ押シ第一部第二課ヲ經テ差出スヘシ尤モ願伺ハ正副二通タルヘシ

第二十九條 官吏病氣或ハ事故アリテ不參スルキハ昇應時限後一時間内ニ其届書ヲ第一部第二課ニ差出スヘシ若病氣引十五日ニ至ラハ必ス醫接ヲ副ヘ届出猶三十日毎ニ同様届出ヘシ尤モ病氣引日數ハ引籠ノ日ヨリ起算スルモノトス

第三十條 諸官吏病氣ノ節奉職ノ地ヲ離レ治療セント欲スルモノハ豫メ療養ノ日限ヲ定メ醫接ヲ副ヘ願出ヘシ第三十一條 諸官吏管外出張ノ者歸應ノ際百里以上ハ三日五十里以上ハ二日廿五里以上ハ一日ノ休暇ヲ賜ルヘシ但出張巡回ノ節ハ其當日又ハ前日歸應ノ時ハ其當日届出ヘシ若シ退應時限后歸應スル時ハ其翌日届出ルモ妨ケナシ尤飯應ノ上ハ復命書ヲ作り具申スヘシ

第三十二條 諸官吏出張先ニ於テ要スル公用書類及物品ヲ携帶セントスルトキハ官吏出張先物品書類運搬規則ニ從フヘシ

第三十三條 諸官吏昇應スレハ該部ニ備フル出勤簿ノ其日野書中ニ小印ヲ捺シ然ル後服務スヘシ

第三十四條 各部長ハ昇應刻限後一時間ヲ過キタル后届書ニ照シテ其部ノ出勤簿ヲ調査スヘシ

第三十五條 諸官吏昇應退出時限左ノ通り但昇應時限後一時間ヲ經過シ昇應シタル者ハ遲參ノ印ヲ捺スヘシ

四月一日ヨリ	昇應午前第八時	退出午後第二時
七月十一日マテ	同	正午十二時
九月十一日ヨリ	同	同
九月十一日マテ	同	同
翌年三月卅一日迄	第九時	第三時

○諸議案書式

明治何年何月何日議明治何年何月何日決明治何年何月何日行

第何部第何課官氏名印

知事代書記官

部長 課長 屬

合議

(第何部長 課長 屬

又ハ

(第何部第何課

何々

○諸議案文例

何々之議

何々上申或届或伺或照會案

何々或回答或縣令訓令等

何々ニ付此段相伺候也

何々

○指令案文例

何々之儀ニ付願

何郡長 何郡何町村戸長

何郡町村何某

右何々ノ次第ニ付聽届相成可然歟 依テ指令案左ニ

相伺候也

願之趣 聽届ニ付聽届ケ難シ

○指令書捺印例

割印

願之通

年月日

知事氏名印

○内閣諸省進達并府縣及郡役所等往復書式并割印例
各種一ケ年通シ番號ヲ用井
朱書スルモノトス但往復文
一ノ二又ハ進 第何號書甲印ハ知事名及縣名ヲ以
往

テシ乙印ハ部課名又ハ部課長名ヲ以テスルモ、トス何々之儀ニ付伺或上申或届府縣等往復ハ此事目ヲ掲ルニ及ハス

何々、候也

年月日 知事氏名印 或何部課印

内閣諸省或府縣等長官宛 或郡役所宛

○縣令訓令等文例

○三重縣令第 號

何々々、ハ、

年月日

知事氏名

右ハ管内一般人民へ令スルノ式ナリ其一部ニ對シ令スルハ伊勢國安濃以北各郡伊賀全國又ハ伊勢國一志郡以南志摩全國紀伊國南北牟婁郡或ハ有位

帶勳者又ハ士族一般等其令達スヘキ部分ヲ縣令番號以下位ニ明記シ又ハ本文中若クハ末尾へ記載スヘシ

○三重縣訓令第 號

郡役所又ハ戶長役場又ハ浦役場警察署病院學校及教員勸業委員等

何々々、ハ、

年月日

知事氏名

右ハ管内同一ニ訓令スルノ式ナリ其一部ニ對シテ訓令スル所ハ縣令ニ準シ其訓令スル部分ヲ明記スヘシ

○三重縣告示第 號

何々々、ハ、

年月日

知事氏名

○三重縣諭告第 號

右告示諭示共其一部ニ對シ發行スルルハ渾テ縣令ノ例ニヨル

○令第 號

各 部

何々々々、

年月日

知事氏名

右ハ廳中各部ニ對シ發スルノ式ナリ其一部ニ課ニ係ルモノハ其部分ヲ明記ス

○三重縣報告第何號

何々、々、注意スヘシ

年月日

三 重 縣

○内閣諸省進達并府縣鎮臺裁判所等往復結文例

内閣省院

贈詞

答詞

報告候也

承知仕候也

進達候也

御請仕候也

相伺候也

上申候也

御届仕候也

御指令有之度候也

寮局廳府縣鎮臺裁判所神宮司廳等

贈詞

答詞

御報有之度候也

及御回答候也

及御問合候也

致承知候也

及御報知候也

及御依頼候也

及御照會候也

申進候也

○郡役所警察署結城神社并ニ敢國神社宮司及出張官吏
學校病院等ハ部課名ヲ以テ往復スル結文例

●雜部門

處務手續

郡役所警察署結城神社并ニ敢國神社宮司等

贈詞

答詞

申進候也

及御回答候也

及御問合候也

致承知候也

出張官吏學校病院等

贈詞

答詞

申入候也

及回答候也

回答有之度候也

致承知候也

○吏民諸願何指令文例

願之趣聽届シ

願之趣何々ニ付聽届ケ難シ

伺之趣何々ト心得ヘシ

伺之通

書面伺之趣左ノ通心得ヘシ

第壹條

何々

第貳條

何々

凡指令文中詮議之次第特別ノ譯等ノ文字ヲ濫用ス
ヘカラス

○郡町村吏及神官僧侶喚出文例

何郡長或ハ何郡町村戸長
或ハ何郡祠官掌等

氏名

何々ニ付尋問ノ儀有之候條本月幾日午前後第何時

參應何部又ハ第何部何課へ可申出候也

年月日

知事氏名或縣名

○召狀文例

在官ノ者ハ官名ヲ記ス

氏名

御用有之候條明幾日午前第幾時或即刻
禮服着用出頭可有之候也

年月日

縣名

第二章 當直手續

第一條 當直ノ人員ハ判任官壹名雇員壹名ヲ以テ定員トス

第二條 當直ノ順次ハ出仕ノ先後ニ據テ之ヲ定ム

但當直ノ前日第一部第二課ヨリ其本人ハ通報スルモノトス

第三條 夜直ノ翌日ハ午前第十時後退廳スルヲ得

第四條 休日ノ當直ハ晝夜ヲ分テ交番スヘシ晝直ノ者ハ

參應例刻ニ出頭シ夜直ノ者ハ日没前ニ出頭交番スルモノトス

ノトス

第五條 百里外出張御用濟歸廳スルモノ若クハ他衙署在勤ノ者ハ出勤ノ日當直名牌ヲ最後ニ掲ク一時出張巡回或ハ病氣引籠除服出仕ノ際當直ノ順次ヲ過キ去リタル

者ハ出勤ノ日ヨリ三日目ニ相務メ若シ順次未タ過キ去ラス歸廳出勤ノ日及翌日當直ニ値フモ全例トス父母病氣歸省及賜暇ノ際當直ノ順次過去リ歸廳セシ者並ニ其日限リ不參ノ者ニシテ當日及次日當直ニ値フ者ハ其出勤ノ翌日ヲ以テ相務ムヘシ

但本條ノ日數計算方ハ休廳日ハ渾テ之ヲ除クベキモノトス

第六條 當直ハ第七條以下ニ示ス所ノ手續ニ照ラシ事務ヲ辨理スヘシ

第七條 知事官印匣ハ翌日參應時限ニ至リ之ヲ第一部第二課長ヘ交付スヘシ退廳ノ際ハ又之ヲ第一部第二課長ヨリ領收シテ管守スヘシ

第八條 當直ノ者ハ當直簿ニ就キ其月日官氏名並ニ其取扱ヒタル事務ノ要領ヲ記シ後証ニ備フヘシ

第九條 退應時限後到達スル諸公文ハ左ノ區別ニ從ヒ處分
スヘシ

第一 知事宛親展ニテ至急ノ文字アルモノハ直ニ知事
ハ回送スヘシ其他親展ニテ至急ノ文字ナク又ハ親展
ニアラサルモノハ第二項后段ニヨルヘシ

第二 縣名及部名課名宛ノモノハ之ヲ開緘閱覽シ其事
急速ヲ要スルモノハ其部長又ハ課長ニ送附スヘシ其
他尋常ノモノハ當直簿ニ記載シ置キ翌日第一部第二
課ニ送附スヘシ

第三 以上掲クル諸文書ヲ送付スルルハ之ヲ送附録ニ
記シ知事又ハ部長課長ニ送付シ送付録ニ捺印ヲ受ク
ヘシ

第四 封金及金子入り書狀ハ其封題金員記載アル者ハ
其金員ヲ併記ス當直簿ニ記シ封緘ノ儘當直所附金箱ニ納メ猶ホ同所

押入内ニ入レ置キ翌日第二部第五課ニ送致シ受印ヲ
徴スベシ休暇日ナレハ次番ノ者ハ引送ルモノトス
但封面至急ノ文字アル者ハ主任ヲ呼出シ之ヲ交付
スヘシ

第十條 前條ニ掲クル諸文書ヲ當直ヨリ部長又ハ課長ニ
送附セハ知事ノ檢閱並ニ關係ノ部長課長ヘ回覽ノ手順
ヲ行フベシ當直ハ右送附ノ書類中回覽ヲ終ヘタル分ト
送附録ト共ニ回還セハ之ヲ預リ置キ翌日第一部第二課
ニ交附スヘシ尤モ休暇日ナレハ次番ニ送ルヘシ

但部長課長ニ於テ留置キタル書類ハ翌日休暇日ナレ
ハ翌々日第一部第二課ニ廻付スヘシ該課ニ於テハ簿記ノ上更
ニ主部ニ送附スルモノトス

第十一條 退應時限後到達ノ官報ハ開封ノ上一部ヲ第一
部第一課長ニ廻送スヘシ其他手續前條ニ準ス

第十二條 總テ電信ヲ發スルハ豫テ第二部第五課ヨリ
 受取リタル頼信紙ニ音信句讀ヲ記シ屆ケ先キ出シ元年
 月日字數等ヲ記入シ電信條例及電信取扱規則ニ依リ電
 信切手貼付及其他ノ手續ヲ爲シ津電信分局ヘ送付スヘ
 シ又糊封ノ電信ハ(親展等ニテ糊封ノ電信ハ其出シ元字
 共記入)封筒面ノ字數ニ對スル全切手ヲ添ヘ津電信分局
 へ送付スヘシ電信發送簿ヘハ月日時間字數及切手種類
 員數ヲ記入シ其下ヘ當直ノ者檢印スベシ

但電信切手ハ第二部第五課ヨリ預ケ置キ該切手ヲ使
 用セシキハ其員數ヲ電信切手受拂簿ヘ記入檢印シ翌
 日(休暇日ナレハ次番)殘員數ヲ全部ヘ引渡スヘシ

第十三條 退廳時限後發送スル文書物品等ハ左ノ區別ニ
 從ヒ處分スヘシ

第一 諸公文ヲ發スルキハ之ヲ秤量シ甲乙丙ノ郵便判

取簿ニ就キ其見出シ部分ニ從ヒ其屆ケ先出シ元及員
 數月日時分量目税金ヲ記入シ税金ノ下ヘ當直ノ者檢
 印シ尙郵便條例ニ依リ封皮ヘ切手ヲ貼付ノ上之ヲ郵
 送狀箱ニ入レ津郵便局ヘ送付スヘシ

但郵便切手ノ受拂ハ第十二條但書ニヨリ取扱フヘ

第二 封筒面ニ書留別配達ト朱記スルモノハ郵便判取
 簿ヘ記載ノ節其頭上野外ニ其譯ヲ朱記スベシ

第三 各部ヨリ發送スル書翰物品等至急ヲ要シ其封面
 ニ別仕立使ト朱書スル分ハ御用物判取帳ニ其宛名員
 數量目ヲ記シ書狀物品各其記
 書シ尋常ノ物品ハ書翰或ハ物品等併セテ之ヲ通運會
 社ニ送付シ受印ヲ徵スヘシ

第十四條 廳中ハ勿論近傍塔世橋ヨリ失火等ノ事アラハ
 公園ニ至ル迄

速ニ知事各部長ニ報知シ門戸ノ開閉點燈ノ配置其他火災心得書ニ據リ臨機處分スベシ

第十五條 夜中点燈ノ事アルルルハ兼テ第二部第五課ヨリ預リ置キタル蠟燭ヲ用ヒ其買數ヲ蠟燭渡帳ニ記シ檢印ス給仕小使ニ渡各部所用ノ分ハ渡シ濟其所用人ニ員數ヲ記セシメ受印ヲ徴スベシ

第十六條 退廳後廳中各席ヲ巡視シ其出入口ノ戸締ヲナスヘシ

第十七條 當直ノ者俄ニ出張巡回ヲ命セラル、カ或ハ發病等ノ事アルルルハ次番ノ者へ事情云々ニ付替務スベキ旨ヲ通知シ相番ニ申送り引取ルベシ

但翌日出發スル者モ亦本文ニ準スヘシ

第十八條 休日當直ノ者俄ニ病氣等ニテ引籠出頭セサルルハ前夜當直ノ者ヨリ其次番へ通報シ交番スルモノト

ス

第十九條 當直看守ノ物品ハ交替ノ際當直所ニ備フル物品目錄帳ニ照ラシ遺漏ナク引送ルヘシ

○令第四號 明治十九年九月十六日

各部

縣令訓令ニ係ル議案ハ渾テ第一部第一課ニ合議スヘシ

○警規第三十七號 明治十九年九月廿五日

警察本部

警察本部處務順序別紙ノ通相定ム

警察本部處務順序

第一章 處務手續

第一條 凡ソ本部ニ到達スル文書ハ第貳課往復ニ於テ之ヲ受領開封シ部長ニ差出ス可シ

但其官氏名宛ニテ親展等ノ標記アルモノハ封ノ儘其

各官ニ配付ス可シ

第二條 凡ソ本部ヨリ發送スル文書ハ第二課往復ニ於テ之ヲ受領シ郵便電信等ノ區別ニ依リ速ニ發送ス可シ

第三條 第二課往復ヲ經スシテ收受發送セシ文書ニシテ退廳後又ハ休暇日ニ係ル分ハ其翌日該往復ニ通知シ出張先ニテ收受ノ分ハ歸廳ノ翌日之ヲ通知スヘシ

第四條 議案ハ熟覽ノ上意見ナキハ速ニ捺印シテ順送シ意見アルガ又ハ意味解シ難クハ主任ニ就テ密問討議シ兩議相協ハサルモノハ部長ニ面陳シ指揮ヲ受ク可シ

第五條 議論數端ニ分レ又ハ他員捺印ノ後主任ノ見込ニ依リテ修正シ若クハ裁決ニ因リテ主意變換スル議案ハ必ス前回議ノ各員ニ回示シ議案欄外ニ捺印ヲ徵シ其廢按ニ屬スルモノハ消印ヲ求ムヘシ

第六條 新聞紙ニ登載スル本縣ノ令達類ハ其決議按ヲ第

二課往復ニテ淨寫シ右欄内初行ニ何月何日決議ノ旨ヲ記載シ課長捺印ノ上第一部第一課ニ送附ス可シ

第七條 退廳後或ハ休暇日ニ方リ至急ノ事件アリテ長官本部長ノ官印又ハ縣部課印ヲ要スルハ其議案ヲ當直ニ示シ立會ノ上捺印スヘシ

但秘密ヲ要スルモノハ旨ヲ記シタル書面ニ本部長ノ捺印ヲ請ヒ之ヲ當直ニ示シテ捺印シ當直ハ立會ハサルモノトス

第八條 官省伺届府縣等ノ往復郡役所警察署等ヘノ筆記達往復ノ類ハ決議書淨寫校合ノ上課ノ小印ヲ以テ原按ト符押シ其種類ニ從カヒ各番號ヲ記シ然ル後長官本部長ノ捺印ヲ受ケ又ハ部課印ヲ捺シテ發送ノ手續ヲナスヘシ

第九條 吏民諸願伺等ノ指令ハ案文決議ノ上本書ノ餘白

ニ朱書ニテ淨書（其餘白ナキハ別ニ部用紙ナシ）シ課ノ小印ヲ以テ原案ト符押シ然ル後長官本部長ノ檢印ヲ受ケ發送ノ手續ヲナスベシ

第十條 凡ソ議接ヲ記録スルニ當テハ議案例ニ照シテ調査シ長官本部長ノ決印アルヲ確認シタル後年月日決又ハ年月日行ト記入シ自己ノ檢印ヲ捺シ置ク可シ其年月日行トシテ捺印アルヲ確認スルニ非サレハ編冊ノ手續ヲ爲ス可カラズ

第十一條 願何等主任受付ノ日ヨリ五日間ニ辨理シ難キ者アルキハ其事由ヲ本紙欄外或ハ付箋ニ朱記シ主任檢印ノ上本部長ノ檢印ヲ受ケ置クヘシ

第十二條 吏民ノ諸申牒其成規文例ニ違ヒ或ハ違算ノ廉アルモノハ主任ニ於テ課名ヲ掲ケ課長ノ檢印ヲ下展スヘシ若シ文意不明瞭又ハ事理不都合等ノ廉アリテ下展

スヘキモノハ其旨附箋シ本部長ノ檢印ヲ經ヘシ

第十三條 凡各部課及郡役所警察署監獄戸長役場學校病院或ハ出張官吏等へ往復ノ文書ハ課名或ハ部名ヲ用ヒ其事ノ慎重極機ニ涉ル者ハ課長名又ハ部長ノ名ヲ以テ取扱ノモノトス

第十四條 各課ヨリ發送スル書類物品ハ電信郵便書留又ハ別配達等ノ類通逓便又ハ別仕立等ノ區別ヲ送付録及封面ニ朱書シ退廳時限ヲ過ケルハ當直ニ送付ス可シ

第十五條 官吏轉送ノ節ハ警察署事務受渡規則ニ依リ受渡濟開申スヘシ

第十六條 官吏新任ノ者ハ五日以内ニ履歷書宿所届ヲ作リ第二課へ差出スヘシ尤モ宿所届ハ轉后ノ都度差出スヘシ

但届書式ハ第二課ニ承合ヌヘシ

第十七條 美濃紙藍摺十三行ノ野紙ハ官省ヘノ進達往復等ノ淨寫ニ用ヒ半紙代摺摺十三行ノ分ハ府縣裁判所ノ往復并ニ所署吏民等ヘノ達其他議案當用等ニ供スヘシ

第十八條 退廳後又ハ休日昇廳スル者又ハ夜業ニ從事スル者ハ其事由ヲ部長並ニ其日ノ當直ニ通知ス可シ

第十九條 諸官吏出張歸廳病氣引籠届進退伺歸省願受書等ハ總テ實印ヲ捺シ第二課ヲ經テ差出スヘシ尤願伺ハ正副二通タルヘシ

第二十條 官吏病氣或ハ事故アリテ不參スルハ當日午前十時迄ニ其届書ヲ差出スヘシ若シ病氣引十五日ニ至ラハ必ズ醫按ヲ副ヘ届出猶在再數月ニ及マトキハ三十日毎ニ同様届出ヘシ尤病氣引ノ日數ハ引籠ノ日ヨリ起算スルモノトス

第二十一條 官吏病氣ノ節奉職ノ地ヲ離レ郷里又ハ他方

ニテ治療セシト欲スル者ハ豫シテ療養ノ日限ヲ定メ醫按ヲ添ヘ願出ツヘシ

第二十二條 諸官吏管外出張ノ者歸廳ノ際百里以上ハ三日五十里以上ハ二日二十五里以上ハ一日ノ休暇ヲ賜ハルヘシ但出張巡回ノ節ハ其當日又ハ前日ニ歸廳ヲトキハ其當日ニ届出ヘシ若シ退廳時限後歸廳スルハ其翌日届出ルモ妨ケナシ尤飯廳ノ上ハ復命書ヲ作り具申ス可シ

第二十三條 各課處務ノ順序手續ハ該課ニ於テ取調本部長ノ裁定ヲ請フ可シ其變更セントスルハ亦同シ

第二十四條 達往復ノ番號ヲ定ムル左ノ如シ

警規第 號

警第 號

警内規第號

警内第 號
 警規往第號
 警往第 號
 内規往第號
 内往第 號
 一筆記達書ニシテ將來ノ例規トナルモノニハ警規第號
 (内密ニ屬スルモノハ警内規第號)其一時限ノモノニハ
 警第號(内密ニ屬スル者ニハ警内第號)ノ番號ヲ用ユル
 モノトス
 二進達往復書類等ニシテ將來ノ例規トナルモノニハ警
 規往第號(内密ニ屬スル者ハ内往第號)其一時限リノ者
 ニハ警往第號(内密ニ屬スル者ハ内往第號)ノ番號ヲ用
 ユルモノトス
 第二十五條 諸文例ヲ定ムル左ノ如シ

辭令書式

大奉 書紙 四ツ 切

何ノ誰
 巡查ヲ命ス
 年 月 日
 縣印

全 上

巡查何ノ誰
 願ニ依リ本
 職ヲ免ス
 年 月 日

全 上

巡查何ノ誰
 何等俸ヲ支
 給ス
 年 月 日

中奉 書紙 四ツ 切

何ノ誰
 雇ヲ命ス
 月 日 給金若干
 年 月 日
 警察本部

全 上

雇何ノ誰
 雇ヲ解ク
 年 月 日
 警察本部

全 上

雇何ノ誰
 自今月(日)給
 金若干支給ス
 年 月 日
 警察本部

免職ノキハ依願ノ
 二字ヲ除ク

増減給ノキハ(自今何
 等俸ヲ支給ス)ニ作ル

全上

巡查(雇) 何ノ誰 何所勤務ヲ命ス 年月日 縣名 (警察本部)
--

巡查ハ縣名雇ハ本部名

○議案書式

明治年月日議明治年月日決明治年月日行

第何部第課官氏名印

部長 課長 課員

合議

第何課

第二十六條 三重縣廳處務細則附則第三條第四條第七條
 第八條第十四條第十七條第十八條第二十四條第三十三

條乃至第三十五條及諸議案書式同文例指令案文例同捺
 印例縣令訓令等文例其他此順序ニ掲記セサル文例ハ渾
 テ該附則ニ據ルヘシ

第二章 當直手續

第一條 當直ハ警察本部詰警部警部補巡查雇ノ内一員順
 次之ヲ務ムルモノトス
 第二條 當直ノ者ハ當直簿ニ就キ其月日官氏名并ニ其取
 扱ヒタル事務ノ要領ヲ記シ後証ニ備フヘシ
 第三條 火ノ元ヲ始メ取締向ニ深ク注意シ若シ出火其他
 非常ノ事アルハ速カニ知事本部長ニ報告ス可シ
 第四條 當直ニ於テ管守シ及交番ノ節受授ス可キモノ左
 ノ如シ

- 一部課印箱
- 一諸鍵箱

一金 概

一當直用帳簿

一鉄扇壹本

● 第五條 退後廳各所ヨリ到達スル本部長宛及警察本部長宛ノ文書物品ヲ受取リ電報及親展親拆等ノ表記アルモノ、外ハ悉ク開封シ當直簿ニ其件名ヲ記シ翌朝往復員ニ交付シ又翌日休暇ナルルハ當直員ニ引繼キ並ニ其領印ヲ徴ス尤モ電報ハ勿論其他至急ヲ要スル事件ト認ムルモノハ該件名又ハ封皮面ニ記載ノ廉ヲ送付簿ニ記入シ其本部長宛ニ係ルモノハ速ニ本部女ニ送り其部課宛ニ係ルモノハ巡查履ハ之ヲ主任ニ送ルハシ

第六條 退廳後各所ニ發ス可キ電信郵便物品等ハ左ノ手續ニ依リ取扱フ可シ

第一 郵便發送帳

第二 電信發送帳

此帳ニハ郵便電信發送ノ都度其年月日發送ケ所量目(電信ハ音信ノ數)書留別配達(電信ハ至急追尾)税金切手種類等ヲ各簿冊ニ記入シ發送ノ手續ヲナスヘシ

第三 郵便切手受拂帳

此帳簿ハ切手ト共ニ第三課用度ヨリ預リ置キ該切手ヲ使用セシトキハ其年月日切手ノ種類員數發信ケ所等ヲ帳簿ニ記入シ(受拂ヲ計算シ員數ノ下ニ捺印ヲ捺ス)殘高ハ翌日(休暇日ナレハ)第三課用度ニ引渡スモノトス(次番ノ者ハ)

第四 書狀持人足品差立判取帳

此帳ニハ別仕立人足ヲ以テ書狀發送シ若クハ諸物品ヲ發送ノ際各部目ニ從ヒ其年月日宛所書狀人夫ノ數及ヒ量目ケ數賃錢等ヲ記入シ通運會社ニ付シ証印ヲ徴シ夫々差立ノ手續ヲナスヘシ

第七條 夜直ト休暇日ノ晝直トハ各別ニ順次ヲ立テ往復員ニ於テ前日之ヲ通知シ尙其名牌ヲ掲ケ置クヘシ若シ臨時病氣出張等ノ者アリテ休暇日ニ名牌ノ變更ヲ要スルモノアルトキハ當直ニ於テ之ヲ掲ケ替ヘ且次番ノ者ヘ通知スヘシ

但夜直ト晝直ト全日又ハ連日ニ該ル者アルキハ晝直ヲ一次採下クヘシ

第八條 新任ノ者并ニ百里外ニ出張シ又ハ警察署分署ノ在勤ヲ解カレ歸着スル者等ハ其拜命歸着ノ日當直名牌ヲ最後ニ掲ク而シテ百里ニ滿タサル地ヘ出張巡回シ若クハ病氣引籠及忌中當直順次ヲ經過セシ者ハ出勤ノ日ヨリ三日目ニ勤メ若シ順次未タ過キ去ラス歸應及ヒ出勤ノ日及ヒ翌日當直ニ値フモ全例トス父母病氣歸省及賜暇ノ際當直ノ順次過去リ歸應セシ者並ニ其日限り不

參ノ者ニシテ當日及ヒ次日當直ニ値フ者ハ其出勤ノ翌日ヲ以テ務ムヘシ

但本條ノ日數計算方ハ休應日ハ渾テ之ヲ除クヘキモノトス

第九條 當直ノ者出張巡回ヲ命セラレ即日出發シ又ハ病氣ニ罹ル節ハ次番ノ者ヨリ順次繰上クヘシ

第十條 夜直ハ退應時限ヨリ翌朝出勤ノ時限迄トシ休暇日晝直ノ者ハ參應例刻ニ出頭シ日没前夜直ノ者ト交代スヘシ

但夜直ノ翌日ハ午前第十時ヨリ退應スルコトヲ得

第十一條 出火其他非常事變ニ依リ登應スヘキキハ非常出頭人名簿ニ其事由年月日官姓名等ヲ記載スヘシ

第十二條 當直ニ於テ蠟燭ヲ用フルキハ蠟燭渡帳ニ其年月日員數及當直用又ハ小使用ノ別ヲ記入シ捺印スヘシ

附則

一 第二十四條ハ明治二十年一月一日ヨリ實施ス
 二 明治十五年庶規第三十七號明治十六年警規第九號達
 ハ廢止ス

但前項ニ關スル分ハ其實施ノ日ヨリ廢止ス

○警第三拾八號 明治十九年九月廿五日

第一部

第二部

收稅部

警察本部處務順序別紙ノ通相定ム右心得ベシ

(別紙ハ警規第三十七號ト同一ニ付畧ス)

○警規第七號 明治二十年三月二十六日

巡查教習所

其所規則別紙ノ通改正ス

(規則ハ二十年訓令第三百二十八號ト同一ニ付畧ス)
 ○三重縣訓令第三百廿八號 明治二十年三月廿六日

警察署

分署

戶長役場

巡查教習所規則別紙ノ通改正ス

巡查教習所規則

第壹章

第壹條 本所ハ巡查志願者ニシテ規則ニ依リ檢査合格ノ

者ヲ以テ教習生トシ警察ノ實務ヲ練習スル所トス

但時宜ニヨリ巡查ヲ以テ教習生ニ加フルコトアルヘシ

第貳條 教習生ハ定員ヲ五十名トス

第三條 教習ノ期限テ二ヶ月トス

第四條 巡查在職ノ教習生ハ時宜ニヨリ一時本務ニ服セ

シムルイアルヘシ

第五條 教習生ヲ命セラレタルモノハ左ノ受書ヲ出スヘシ

受書

府縣國郡町村番屋敷

(當縣國郡町村番屋敷寄留)

氏名

右貴所受業生被命候ニ付テハ御規則及御達等堅ク可相

守勿論身元并ニ學資ノ償還其他在學中ノ事故ハ一切証

人ニ於テ引受可申因テ証人連署ヲ以テ御受申上候也

年月日

本人 氏名 印

三重縣郡町村番屋敷

氏名 印

當何月何年何月

全

全

全

保証人ハ本縣在籍ノモノニ限ル而シテ年齡滿二十
年以上ニシテ資産アルモノヲ撰ムヘシ

第六條 教習生ハ本所内ニ寄宿セシメ通學ヲ許サス

第七條 教習生ハ半途ニシテ退學シ又ハ期限内他ノ官途

ニ出身スルヲ許サス

第八條 試験ニ及第シタルモノハ卒業證書ヲ授與シ其成

跡殊ニ優等ノモノハ褒狀ヲ與フ若シ落第シタルモノハ

再試験ヲナシ仍ホ落第シタルモノハ卒業證書ヲ與ヘス

第九條 卒業證書ヲ受ケタルモノハ巡查ニ採用ス巡查滿

員ノキハ一時歸家セシメ欠員ヲ待テ採用スヘシ

第十條 凡巡查採用ノキハ五等俸ヲ以テ例トスト雖モ學

力優等品行方正ノ者ハ此例ニ拘ハラズ特ニ撰拔スル
アルヘシ巡查ニシテ教習生タル者ハ試験成績ニヨリ黜
陟スルヲアルヘシ

第貳章 學科

第拾壹條 教習科目左ノ如シ

執行警察

安寧警察

營業警察

風俗警察

衛生警察

道路警察

司法警察

設問起案

探練

擊劍柔術及捕繩

第拾貳條 教師ノ講義ハ教習生自ラ筆記スヘシ

第拾三條 設問起案ハ告發書報告書諸般ノ復命書檢証調

書告訴告發調書逮捕調書令狀執行方法其他探偵書上申

書等職務ニ必要ナル諸般ノ文案ヲ授テシテ

第拾四條 操練ハ姿勢運動ヲ敏活ナラシムルヲ目的トシ

時々隊伍ヲ組ミ野外運動ヲサシメ他日隊伍ヲ編制ス

ルニ差支ナカラシム

第三章 授業休業

第拾五條 授業時間ハ毎日七時間トス

第拾六條 休業ハ一般官衙ノ例ニヨリ

第四章 試驗

第拾七條 試驗ハ大試驗小試驗ノ二種トシ大試驗ハ教習

期限ノ終ニ於テ行ヒ小試驗ハ入學一ヶ月後ニ於テ之ヲ

行フ

第拾八條 試験ハ對策應問ノ二種トシ每科之ヲ行フ

第拾九條 試験ノ成績ハ一科一百点ヲ以テ最高点トシ各科平均七拾五点已上ヲ及第トシ七拾五点未滿ヲ以テ落

第トス

第貳拾條 平素ノ勸怠品行等ハ試験ノ際点数ニ算入ス

第五章 教場心得

第廿壹條 授業上ノ事項ハ特ニ許可アルノ外他ニ漏洩スルヲ禁ス

第廿貳條 教場ニアリテハ總テ教官ノ指揮ニ從ヒ容儀ヲ正クシ苟モ不敬ヲ行爲アルヘカラス

第廿三條 授業ノ終始ニハ教師ニ對シ起立シテ敬禮ヲナスヘシ

第廿四條 教官ニ對シ質問ノ應答ヲナスルハ起立スヘシ

第廿五條 教習生ノ席次ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ小試験ノ成績ニヨリ席次ヲ變更ス

成蹟ニヨリ

第廿六條 授業中ハ猥リニ教場外ニ出ツヘカラス但シ止ムヲ得サルルハ教師ノ許可ヲ受クヘシ

第廿七條 教場ニ在リテハ喫烟又ハ私語談笑スヘカラス

第廿八條 總テ上官ノ來場アリタル時ハ教官ノ指揮ニヨリ起立シテ敬禮ヲ表スヘシ其退場ノ片又同シ

第廿九條 授業終ルト雖モ許可ヲ得タル場合ノ外教官ニ

先テ退場スルヲ許サス

第六章 教習生心得

第三拾條 教習生ハ上官ニ對シ專ラ敬禮ヲ盡シ其指揮命

令ヲ遵奉シ品行ヲ正シシ姿勢ヲ紊スヘカラス

第三拾壹條 教習生中舍長若干名ヲ置キ室内ノ取締ヲナ

サシム

第三拾貳條 教習生ハ成規外ノ服ヲ着シ又ハ脱靴スヘカ
 ラス但寢室ニアルキハ此限ニアラス
 第三拾三條 教習生ハ被服ヲ清潔ニシ靴ハ墨澤ヲ發セシ
 ヲ頭髮ハ長サ前一寸五分後五分以下ニシテ毎朝梳ルヘ
 シ
 第三拾四條 教習生ハ眼鏡杖傘頸卷呼吸器ノ類ヲ用フカ
 ラス
 第三拾五條 教習生ハ兼テ指定スル場所外ニ於テ被服帶
 劔帽靴等ヲ着脱収置スヘカラス
 第三拾六條 教習生ヨリ出ス願何届ハ所長宛ニ認メ舍長
 ノ認印ヲ受ケ幹事ニ差出スヘシ
 第三拾七條 夜中不時ニ點檢ヲナスコアルヘシ此相圖ヲ
 受ケタルキハ遅クモ十分間ニ職具ヲ裝シ兼テ指定スル
 場所ニ駆付テ其順序ニヨリ整列スヘシ

第三拾八條 教習生外來人ニ面會スル時ハ應接所ニ於テ
 面談スヘシ但病氣其他不得止時ハ幹事又ハ舍長ノ指揮
 ヲ受クヘシ
 第三拾九條 教習生外出時間ハ時々告示スヘシ
 第四拾條 舍長ハ輪番ヲ以テ外出時間當直ヲナサシムヘ
 シ
 第四拾壹條 教習生外出スルキハ名牌ヲ當直舍長ニ出シ
 歸舍ノ時之ヲ受取ルヘシ
 第四拾貳條 教習生外出時間内ニ歸所セサル時當直舍長
 ハ其名牌ヲ幹事ニ出スヘシ
 第四拾三條 父母重症他ニ看護スヘキモノナキ時ハ二周
 間以内看護ヲ許スコアルヘシ但願書ニハ醫証ヲ添フヘ
 シ
 第四拾四條 近火其他非常時變ニ遭遇スルキハ所長幹事

ノ命令ニ從ヒ喧噪雜沓スヘカラス

第四拾五條 左ニ記載スルモノハ之ヲ給與ス

一 食料

一 藥餌

一 筆紙墨

一 炭油

第四拾六條 左ニ記載スルモノハ之ヲ貸與ス

一 日課用及參考書籍

一 臥具類

一 火鉢

一 煙草盆

一 靴箱

第四拾七條 修業中出願退所シ又ハ巡查奉職年限内ニ辭

職スルモノハ修業中ノ費用ヲ償還セシム若シ本人ニ於

テ滞納スルモノハ証人ヨリ之ヲ辨償スヘシ

第四拾八條 所内ニ於テ飲酒ハ勿論放歌喧噪其他猥褻ノ

談話ヲ爲スヘカラス

第四拾九條 寢臥時間ノ外私ニ寢室ニ臥スヘカラス

第五拾條 所内ニ於テ稗史小説其他玩具ヲ弄フ可ラス

第五拾壹條 寢内ニ於テ喫烟談笑スルハ勿論火具ヲ入ル

ヘカラス

第五拾貳條 教習生ハ食堂ノ外飲食スヘカラス但其時間

ハ號鐘ヲ以テ之ヲ報ス

第五拾三條 室内ハ輪番ヲ以テ一日一回已上掃除スヘシ

第五拾四條 本所ノ物品ヲ粗暴ニ取扱ヒ又ハ猥ニ使用ス

ヘカラス

第五拾五條 猥リニ金錢衣類ヲ貸借シ又ハ借用ノ物品ヲ

轉貸スヘカラス

第五拾六條 教習生疾病ニ罹リタルハ三重縣病院ニ於テ診療ヲ受ケシム但特ニ許可ヲ得タルハ他ノ診療ヲ受ケルヲ得

第五拾七條 傳染病又ハ重病ニ罹リタルハ入院セシメ或ハ下宿ヲ命シ又ハ直ニ証人ニ引渡スヲアルヘシ

第五拾八條 教習生疾病ニ罹リ二週間ヲ過キ痊愈セサルハ退學ヲ命スルヲアルヘシ

第五拾九條 教習生疾病ニ罹リ欠科シタルハ當日ノ外出ヲ許サズ

第六拾條 教習生疾病ニ罹リ治療ヲ受ケント欲スルモノハ其旨願出受療証ヲ受ケルヘシ

第六拾壹條 前條受療証ヲ受ケタルモノハ幹事又ハ舎長ニ告ケ病院ニ至リ受療証ヲ示シ治療ヲ請フヘシ歸所セ

シキハ直ニ幹事又ハ舎長ニ告ケ其藥餌ヲ示スヘシ但全

快シタルハ受領証ヲ添ヘ其旨届出ツヘシ

第六拾貳條 許可ノ上外宿治療ズルモノハ病院ヨリ受ケル處ノ藥餌ハ其受ケタル月日藥餌ノ數ヲ五日毎ニ申出

第六拾三條 書籍器具等ヲ借用セバトスルモノハ幹事ニ申出貸渡簿ニ式ノ如ク記入押印スヘシ

第六拾四條 教習生ハ本則第五章以下ノ各條及時々示達スル所ノ條項又ハ命令ニ違背スルモノハ三週間以内ノ

禁足ニ處シ又ハ巡査懲罰例ニヨリテ處分シ若シハ教習生ヲ免スルヲアルヘシ

○明治二十年警規第廿四號達
(本文ハ各所勤務
法ノ部ニアリ)

第一條 出勤簿取扱心得
第一條 職員出勤簿ヲ調製シ左ノ例ニヨリ取扱フヘシ

第二條 出勤簿ハ甲乙二冊ヲ製シ甲ハ外勤員乙ハ内勤員

ノ簿冊トス

第三條 出勤簿ハ署長ノ案前ニ備置キ安リニ他ニ移スヘカラス

第四條 昇署時限ヲ過クレハ之ヲ調査シ左ノ區別ニ依リ捺印スヘシ

一出務印 外勤員出務スレハ朱肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

二派出印 出張巡回赴任途次トモ朱肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

三休暇印 日曜其他休業ニテ休暇スル者及非直ノ者ハ朱肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

四賜暇印 署中若クハ慰勞等ニテ休暇ヲ賜ハル者ハ朱肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

五歸省印 休暇賜暇引中ニアラスシテ得暇歸省スル者ハ黒肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

六忌引印 忌引スル者ハ黒肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

七病引印 疾病ノ爲メ不參スルモノハ轉地療養トモ黒肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

八公病印 職務上負傷若クハ傳染病ニ罹リ不參スル者ハ朱肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

九遲參印 昇署時限後ニ出勤セシ者ハ黒肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス

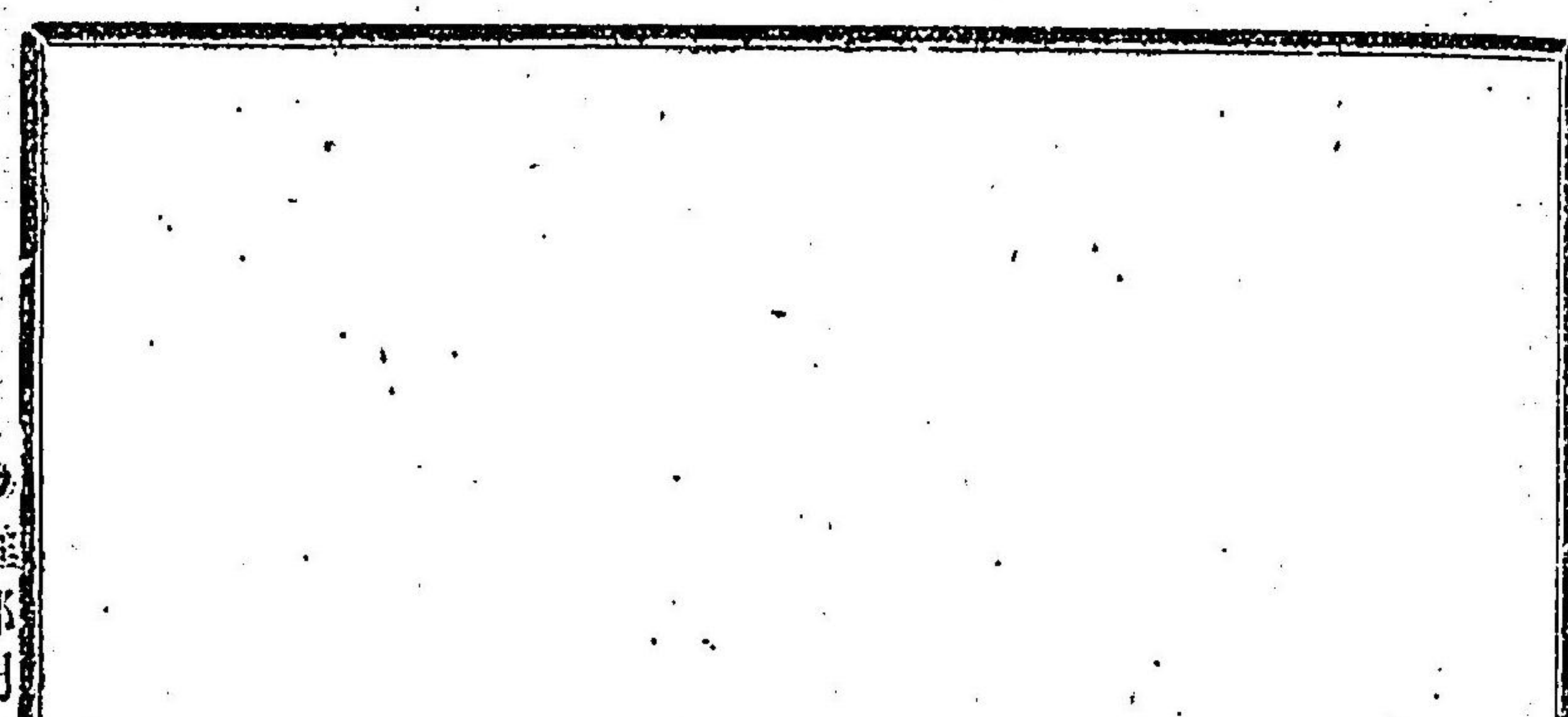
十早退印 退署時限前ニ退署スル者ハ黒肉ヲ用ヒ此印ヲ捺ス但退署ノ際出勤印ノ傍ラニ押捺ス

第五條 毎月五日迄ニ前月中ノ勤不勤不參早退日數ヲ調査シ一人毎ニ記入シ主認認印スヘシ

第六條 前項調査ノ際派出休暇賜暇公病ノ押捺アルモノハ勤日數トシ歸省忌引病引ノ押印アルモノハ不勤日數トスヘシ

第七條 本縣内他警察官衙ニ轉勤スルルハ速ニ本人ノ出勤簿ヲ其官衙ニ送付スヘシ

第八條 出勤簿ハ毎年一月十日迄ニ之ヲ警察本部ニ送付スヘシ



出勤簿様式

月	日	一	二	三	四	以下略之
○	○	○	○	○	○	
用紙名氏						
勤日數						
不勤日數						
遲參日數						
早退日數						
何日	何日	何日	何日	何日	何日	何日

● 雜部門 處務手續

二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二

明治十七年警規第二十九號ヲ以追加

○明治十六年警甲第一號達(本文司法門ニ在リ)

第三十二節 出勤簿勤務一覽表檢効錄取扱

第一條 出勤簿ハ署所員ノ勤務ニ從事セシト否トノ數及其勤怠ヲ檢スルモノトス

第二條 出勤簿ハ甲乙二冊ニ作リ甲ヲ内勤員乙ヲ外勤員ノ簿冊トス

但巡查交番所ハ二冊トナスニ及ハス

第三條 署所員出勤セハ直ニ出勤簿其日ノ欄内ニ捺印ス

ヘシ

第四條 出勤簿ハ毎朝前日ノ勤不勤ヲ調査シ警衛傳遞村落巡回臨時出張非直病氣忌引休暇歸省等ノ小印ヲ捺シ又毎月五日迄ニ出勤簿ヲ調査シ前一ヶ月間ノ勤不勤日數ヲ一人毎ニ記入スヘシ

第五條 前條調査ノ際警衛傳遞巡回臨時出張非直忌引休暇ノ日ハ出勤日數ニ病氣引歸省等ノ日ハ不勤日數ニ算入スヘシ

第六條 勤務一覽表ハ外勤員日々ノ勤務割及區別監督等ノ度數ヲ檢スルモノトス

第七條 監督員見張所ハ當該員ハ當日ノ勤務一覽表ニ月日時間其他科目ニ依リ時々記入シ勤務者ハ勤務ノ都度各其欄内ニ捺印スヘシ

第八條 監督員ハ毎月一日ニ前月中ノ巡回監督ノ度數ヲ

一線路毎に受付見張檢査以下ノ各科目ハ一科目毎に勤務ノ人員ヲ計査シ前月末日ノ勤務一覽表欄外ニ朱記スヘシ

第九條 勤務一覽表空白ノ欄ニハ署所長ニ於テ特ニ一目ヲ設クルノ必要ナリト思料スルモノヲ記ス此場合ニ於テ空白ノ欄ヲ以テ給足セサルキハ不用ノ目ニ掛紙ヲナシテ之ヲ記スヘシ

第十條 檢効録ハ各外勤員ノ職務上ニ就キ實効ヲ奏セシ事項年月日場所ヲ記載スルモノトス
但本文實効司法上ニ涉ルキハ朱ヲ以テ司ノ字ヲ冠スヘシ

第十一條 監督員ハ各外勤員ノ實効ヲ奏セシ事項年月日場所ヲ開取リ檢効録ニ記載スルモノトス
第十二條 一事項ニ付二名以上ニテ奏効セシ者ハ各檢効

録中ニ事項年月日場所及其二名以上ナルヲ記載スヘシ

第十三條 出勤簿ハ署所長ノ按前ニ備ヘ置キ妄ニ他ニ移ス可ラス

第十四條 警部以下轉勤スルキハ元在勤ノ署所ヨリ本人ノ出勤簿及ヒ檢効録ヲ轉勤ノ署所ヘ送付スヘシ
第十五條 出勤簿勤務一覽表及ヒ檢効録様式ヲ示ス左ノ如シ

檢効録様式用紙半紙

巡查 何 某

- 一何月何日何處ニ於テ強盜犯何某ヲ逮捕ス
- 一何月何日何處ニ於テ何某ノ自殺セントスルヲ救護ス
- 一何月何日何處ニ於テ迷子發見何某ニ引渡ス
- 一何月何日何處ニ何某家屋ヨリ發火スルヲ消留ム

一何々々、

○明治二十年警規第二十四號達 (本文ハ各署勤務
法ノ部ニアリ)

簿冊ノ整理及題名

第一條 簿冊ノ整理ハ左ノ例ニ依ルヘシ

第一項 簿冊ハ毎年一月一日ニ起シ十二月三十一日迄

ニ仮綴シ翌年一月中ニ整理ス

第二項 簿冊ハ其題名年月日署名ヲ表記シ一冊ニ止ム

ルモノハ完ノ字數冊トナルモノハ何冊ノ内一二三ノ

號數ヲ朱記ス

第三項 簿冊ニ依リ紙數僅少ニシテ新ニ編起スルニ及

ハサルモノハ適宜紙數ノ滿ツルマテ之ヲ襲用シ表紙

ニ起止ノ年月日完ノ字ヲ標記ス

第四項 法律規則規號等向來ノ例規トナルヘキモノ

ニハ每冊之レカ索引ヲ作り其冊首ニ掲ケ披索ニ便ニ

ス

第五項 索引ヲ付スルルハ特ニ符號順次ヲ逐フテ他書

數ノ其間ニ交ラサルモノ、外ハ必ス一件毎ニ一二三

ノ番號ヲ起シ本紙ノ見易キ所ト索引件名ノ齧頭トニ

付記ス

第六項 成規トナルヘキ簿冊ハ其廢改ノ都度訂正ヲ加

ヘ訂正ノ濟ミタル旨ヲ双方ノ簿冊ニ記入シ主任認印

ス

但零紙ニ何年月日訂正濟ト記シ主任認印シテ表紙

ニ貼付シ置クヲ要ス

第七項 簿冊中簿書圖表等ハ一號表式ニ照依シ書名ヲ

列記シ年々編次ノ冊數ヲ記入シ書籍類ハ二號表式ニ

照依シ新規編輯及購求スル等ノトアレハ其書名冊數

ヲ加記ス

第壹號 簿冊目錄表

書名	明治十年	明治十一年	順次年ヲ逐					
官報	全拾貳冊		フ以下同シ					
警規達	全壹冊							
何々								

第二號 書籍目錄表

書名	明治十年	明治十一年	順次年ヲ逐					
刑法注釋	何冊		フ以下同シ					
治罪法	白全壹冊本 本部下付							

第貳條 簿冊ノ題名員數ハ左ノ例ニ依ルヘシ

但簿冊分合増加スルキハ豫メ其事由ヲ具シ本部長ニ届出ベシ

一官報編冊 逐號編冊シ其目錄ヲ得レハ一月分ヲ裝釘ス

三法令全書編冊 逐次編冊シ年二回七月前半年トテ合冊裝釘ス但三四冊ニ分裝スルモ便宜トス

三三重縣公報 編冊

四三重縣警察要報編冊

五三重縣警規號達編冊

六三重縣警囚規號達編冊 第三項ヨリ本項迄ノ簿冊ニハ本縣ヨリ出ツル題號ヲ逐次編冊ス

七諸規則編冊 前各項及第八項ノ外他一節ノ書類中將來ノ規則トナルヘキモノヲ編冊ス

八諸達案編冊 署ヨリ出入諸達案ヲ綴ル

九署員ノ名簿 附宿所附

十重輕罪處分錄 様式后ニ示ス

十一賭博犯處分錄 全上

十二違警罪處分錄 全上

十三娼妓貸座敷私娼者等處分錄 全上

十四警察上ニ係ル諸營業不許人名簿

十五頭取取締等人名簿

- 十六檢視ニ關スル書類
- 十七遭難屆
- 十八罪犯捜査書類
- 十九重輕罪犯ニ關スル書類
- 二十品觸一件書類
- 廿一賭博犯ニ關スル書類
- 廿二被監視人ニ關スル書類
- 廿三失踪者瘋癲者棄兒迷兒等ニ關スル書類
- 廿四諸集會ニ關スル書類
- 廿五街道ニ關スル書類
- 廿六件名日誌様式后ニ示ス
- 廿七外勤日誌
- 廿八署員職務上ニ關スル上申報告
- 廿九遺失物埋藏物等ニ關スル書類

- 三十三重縣警號達編冊
- 三十一三縣縣警察内号達編冊
- 三十二警察本部往復編冊
- 三十三管内各署往復編冊
- 三十四管外各署往復編冊
- 三十五裁判所往復編冊
- 三十六諸官衙往復編冊
- 三十七古物商ニ關スル書類
- 三十八質屋ニ關スル書類
- 三十九雇人受宿ニ關スル書類
- 四十娼妓貸座敷ニ關スル書類
- 四十一藝妓營業ニ關スル書類
- 四十二馬車ニ關スル書類
- 四十三人力車ニ關スル書類

- 四十四宿屋ニ關スル書類
- 四十五烟火及火藥使用願ニ關スル書類
- 四十六火藥ニ關スル書類
- 四十七劇場觀物場寄席及其他興行ニ關スル書類
- 四十八銃砲ニ關スル書類
- 四十九川船ニ關スル書類
- 五十屠獸場及獸肉ニ關スル書類
- 五十一凍氷ニ關スル書類
- 五十二牛乳搾取及販賣ニ關スル書類
- 五十三遊技場ニ關スル書類
- 五十四湯屋ニ關スル書類
- 五十五料理店ニ關スル書類
- 五十六墓地及埋葬ニ關スル書類
- 五十七船燈ニ關スル書類

- 五十八新聞雜誌ニ關スル書類
- 五十九警察報告表原稿
- 六十違警罪即決表原稿
- 六十一重輕罪違警罪諸罰則犯事件表原稿
- 六十二臨時取調警察諸表原稿
- 六十三警察諸表ニ關スル議案
- 六十四人民諸願伺届 他ノ簿冊ニ入ラサルモノニ限リ編冊ス
- 六十五違警罪ニ關スル書類
- 六十六賣淫犯ニ關スル書類 娼妓賣座敷規則犯ニ關スル書類
ヲモ本簿ニ編ム
- 六十七警察報告臺帳様式後ニ示ス
- 六十八勤務一覽表編冊
- 六十九巡回表編冊
- 七十會議ニ關スル書類
- 七十一巡查以下一身上ニ關スル願伺届

● 雜務門 處務手續

七十二人民諸受書及領收書
七十三人蓄傳染病ニ關スル書類
七十四雜書編冊

第三條 簿冊ノ調製ニ付別ニ成規アルモノハ其成規ニ依ルヘシ

甲號(表面文字又ハ○ノ傍ニ、点ヲ附シタルモノハ記入スヘキ一例ヲ示シタルモノナリ以下倣之)

件名 日誌 様式 美濃紙

記號	年月日	官署名	事	件	終	結
甲第一號	廿年一月十一日	本部長	奉職中兇賊捕獲ノ際創傷ヲ受ケ該創未タ全癒ナラサルモ到底癩疾ニ屬スヘキ醫師ノ鑑定ニヨリ扶助料給與方具申			
甲第二號	廿年一月十一日	本部長	巡查山北龜郎實每病氣看護歸省願許可及巡查安田陸吉實父同上進願許可ノ具申			

● 雜務門

處務手續

五百四十一

乙號 件名 日誌 様式 美濃紙

番號 記號 年月日 官署ノ名 事 件 終 結

甲第三號	甲第一號	甲第二號	甲第三號
廿年一月十一日			
愛知縣 豐橋警察署			
愛知縣三河國寶飯郡六甲村平民小林勘吉ナリテ愛知縣御油下地村平民小南旅舎ニ係ル越テ以テ同署ノ所轄ルモノ四日市南町旅舎ニ係ル越テ以テ同署ノ所轄加藤源七方ニテ同宿人ニ係ル越テ以テ同署ノ所轄不拂逃走セシ付同人ニ係ル越テ以テ同署ノ所轄ニ適當ノ者アルヤ否捜索方照會			

乙 第 號	乙 第 號	乙 第 號	乙 第 號
號	號	號	號
年月日	年月日	年月日	年月日
號	號	號	號
明治二十年一月十三日	明治二十年一月十五日	明治二十年一月十三日	明治二十年一月十四日
本部 第一課	本部 第一課	本部 第一課	本部 第一課
南大社 警察署長	南大社 警察署長	南大社 警察署長	南大社 警察署長
以 南 大 社 警 察 署 長 ヨ リ 書 類 核 轉 ノ 件	以 南 大 社 警 察 署 長 ヨ リ 書 類 核 轉 ノ 件	以 南 大 社 警 察 署 長 ヨ リ 書 類 核 轉 ノ 件	以 南 大 社 警 察 署 長 ヨ リ 書 類 核 轉 ノ 件

五百四十三

乙 第 號	丙 號	丙 號	丙 號	丙 號	丙 號	丙 號	丙 號
號	號	號	號	號	號	號	號
年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日	年月日
號	號	號	號	號	號	號	號
明治二十年一月十三日	明治廿年四月一日	明治廿年四月一日	明治廿年四月一日	明治廿年四月一日	明治廿年四月一日	明治廿年四月一日	明治廿年四月一日
本部 第二課	本部 第二課	本部 第二課	本部 第二課	本部 第二課	本部 第二課	本部 第二課	本部 第二課
分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件	分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件	分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件	分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件	分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件	分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件	分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件	分署詰員取極メノ 上ハ通報方照會ノ 件

雜務門
處務手續

五百四十三

件名日誌記載例

一 甲號件名日誌ハ上申伺及照會等新タニ已レヨリ起テ他ニ發送スル一切ノ書類ノ事件ヲ登錄スル者トス

發送書類ニ付スル番號ハ甲第何號トシ其號及年月日ヲ記錄番號年月日ノ欄ニ記入スル者トス官署名ノ欄ニハ發送書類ニ宛テタル署名ヲ記入ス事件ノ欄ニハ其事件ノ要領ヲ記入スルモノトス終結ノ欄ニハ發送セシ書類ノ事件ニ對シ指令回答等ノアリタルキハ之ヲ記入シ其事ノ結末ヲ明カニスルモノトス

一 乙號件名日誌ハ他ノ官署ヨリ來到セシ書類ノ事件ヲ登錄スルモノトス

番號ノ欄ニハ書類ノ受付順序ノ號ヲ記入ス而シテ該號ハ其受付タル書類ニ對シ爲ス所ノ回答等ノ書類ニ其儘之ヲ付スルモノトス

官署ノ欄ハ書類ヲ發シタル官署名若クハ官氏名ヲ記入スルモノトス

事件ノ欄ニハ來到セシ書類事件ノ要領ヲ記入スルモノトス

終結ノ欄ニハ來到セシ書類ニ對シ爲シタル處分結末ノ要領ヲ記入スルモノトス

一 丙號件名日誌ハ署員并ニ一般人民ヨリ差出ス一切ノ書類ヲ登錄スルモノトス但署員ト人民ト各部分シ混記セサルヲ要ス

番號ノ欄ニハ受付書類ノ順序ニ從ヒ一二三或ハ123ト記スル者トス

記事ノ欄ニハ申告ニ係ル事件ノ要領ヲ記入スル者トス

申告者氏名ノ欄ニハ申告者署員ナルキハ職氏名人民ナルキハ住所姓名ヲ記入スル者トス

區處ノ欄ニハ事件區處ノ類未ヲ記入スル者トス
 一他官署ヨリ返詞アリタル片ハ甲號ニ他官署ノ照會等
 リ返詞ヲ發スルモハ乙號ニ記入スルモノトス
 一番號ハ毎年一月一日ニ起シ十二月三十一日ニ止ムヘキ
 モノトス

(警察報告表臺帳様式) 用紙半紙

遭難者	郡 町 何 某	遭難者	郡 町 何 某
月 日	明治 年 月 日 晝夜	月 日	明治 年 月 日 晝夜
遭難 場所	郡 町 村 町 自宅ニ於テ	遭難 場所	郡 町 村 町 自宅ニ於テ
遭難 種類	窃盜セラレシ	遭難 種類	窃盜セラレシ
種 類 員 數		種 類 員 數	
貨 幣	一〇五、八〇〇	衣 類	一八〇、二〇〇
古 金 銀	四、〇〇〇	穀 類	一〇、七〇五
貨 幣 合 計	一〇五、八〇〇	貨 幣 合 計	一〇五、八〇〇

備考 明治二十年六月三十日犯人拿捕

遭難者	郡 町 何 某	遭難者	郡 町 何 某
月 日	明治 年 月 日 晝夜	月 日	明治 年 月 日 晝夜
遭難 場所	郡 町 村 町 番屋敷	遭難 場所	郡 町 村 町 番屋敷
遭難 種類	窃盜	遭難 種類	窃盜
種 類 員 數		種 類 員 數	
貨 幣	一〇五、八〇〇	衣 類	一八〇、二〇〇
古 金 銀	四、〇〇〇	穀 類	一〇、七〇五
貨 幣 合 計	一〇五、八〇〇	貨 幣 合 計	一〇五、八〇〇

記載例

一遭難場所ノ欄ニハ盜難ニ遭ビシ場所ヲ記入スル者トス

例ハハ自宅又ハ其郡町村某寺院某途上字或ハ其所碇船
 (航行)某船又ハ其山林田野ニ於テ等ト記スル類
 二 遭難種類ノ欄ニハ盜難ノ種別ヲ記入スルモノトス強竊
 盜ニ遭ヒシ及強竊盜セラレントセシ携帶詭騙掏摸等ニ
 遭ヒシ及同上セラレントセシ田野山林牧場澤池沼湖等
 ノ產物ヲ盜マレシ及盜マレントセシ等ト記スル類
 三 盜難物ノ欄ニハ盜マレ物品ノ個數代價ヲ類別シテ登記
 スルモノトス
 四 様式ニ朱記スルモノハ其一例ヲ示スナリ
 五 右ノ外本表式ニ照シテ記入スルモノトス

明治何年何月中發見

古物商ノ 訴出ヨリ	衣類 個數	家宅搜索ニ ヨリ	穀類 數量	現用取押 金銀塊 個數	代價	犯人ノ捨 去ニヨリ	何々
	一五〇	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇	六〇〇		

(賭博犯處分錄樣式)

第一號ノ五	賭博犯處分錄	主任 官 氏 名
受理明治何年何月何日	住所本縣伊勢國安濃郡津西町	何
生國信濃國	職業無職業	前科三
刑罰第壹項云々	逮捕署名津	明治何年何月何日
處懲罰五年月日	過料不納	身代限
罰過料金百二圓錢	換刑ノ日數	留懲收ノ日數
	二	過料金金百圓錢

(娼妓貸座敷私娼者處分錄樣式)

第二號ノ一	娼妓貸座敷私娼者處分錄	主任 官 氏 名
受理明治何年何月何日	住所本縣伊勢國安濃郡藤枝町	何
職業娼妓	前科	犯犯狀檢梅期日不參
年何	十八年五月	度數
處分明治何年何月何日	過料金額金圓三拾錢	納金額不納ニ付苦營業
月日	完納月日明治年月日	使日數

(違警罪處分錄樣式)

第壹號ノ一	違警罪處分錄	主任	警部	何某
受理 明治何年何月何日	住所 本縣伊勢國安濃郡津西町	姓名	何某	某
罪狀 酒造稅則	場所 本縣伊勢國桑名郡川口	告訴 發自首	告發	
處分 桑名署ヨリ囑托	刑ノ加	再犯ニ付一等ヲ加フ		
囑托 桑名署ヨリ囑托	減刑ノ加			
言渡 明治何年何月何日	他管へ送致	明治何年何月何日	正式裁判請求申	明治何年何月何日
月日	及所名	明治何年何月何日	立書受理月日	明治何年何月何日
没收 物件	参考			
執行及赦免	完納月日	明治何年何月何日		
管轄 違警	返納ヲ命シ出金ノ有無	明治何年何月何日		
別區分處	科料 料金壹圓八拾五錢	明治何年何月何日		
無罪 免訴	不完納ニ付拘留ニ換ヘシ月日	明治何年何月何日		
	幾部納付ノ金額及其月日	明治何年何月何日		
	金圓錢納	明治何年何月何日		

(重輕罪處分錄樣式)

第二號ノ二	重輕罪犯處分錄	主任	警部補	何之誰
本籍 何府何郡何町何番地	姓名	何	誰	
種族 平民	職業	青物商	年齡	明治何年何月何日
現在 本縣何郡何町	逮捕	本縣何郡何町	逮捕	明治何年何月何日
自首 明治何年何月何日	逮捕 區別	何	誰	
告知 行舉動	現行			
告知 行舉動	非執行			
告知 行舉動	刑ノ正條	第何百何十何條		
告知 行舉動	拘引狀執	明治何年何月何日		
告知 行舉動	勾留狀執	明治何年何月何日		
告知 行舉動	收監狀執	明治何年何月何日		
告知 行舉動	刑ノ正條	第何百何十何條		
告知 行舉動	拘引狀執	明治何年何月何日		
告知 行舉動	勾留狀執	明治何年何月何日		
告知 行舉動	收監狀執	明治何年何月何日		

雜市門 處務手續 五百五十一

考	參
重罪違警罪賭博 娼妓貸座敷私娼者 處分錄記載例	
一本表ハ專ラ警察報告表違警罪即決表ヲ調製スルノ材料 ニ供スルノ目的ヲ以テ規定セルニヨリ一用紙數種ノ犯 罪ニ適用スルノ振合ニナシタリ故ニ甲ニ必用ニシテ乙 ニ用ナク亦文字ノ妥當ナラサルモノアリト雖各便宜記 入スルヲ要ス	
一番號ハ受付番號ヲ記入シ一件ニシテ數人連續スル者ハ 何號ノ一又二等ト記スヘシ	
一女ハ必ス其名ヲ仮名書ニシテ男ト別ツヘシ	
一最科度數ハ其犯罪ト同様ナル最科ノ度數ヲ記スヘシ故 ニ賭博ノ如キ司法處分ニ屬スル分ヲモ通算スヘシ	
住名	受害者
被所	

重罪違警罪賭博
娼妓貸座敷私娼者 處分錄記載例

一本表ハ專ラ警察報告表違警罪即決表ヲ調製スルノ材料
ニ供スルノ目的ヲ以テ規定セルニヨリ一用紙數種ノ犯
罪ニ適用スルノ振合ニナシタリ故ニ甲ニ必用ニシテ乙
ニ用ナク亦文字ノ妥當ナラサルモノアリト雖各便宜記
入スルヲ要ス

一番號ハ受付番號ヲ記入シ一件ニシテ數人連續スル者ハ
何號ノ一又二等ト記スヘシ

一女ハ必ス其名ヲ仮名書ニシテ男ト別ツヘシ

一最科度數ハ其犯罪ト同様ナル最科ノ度數ヲ記スヘシ故
ニ賭博ノ如キ司法處分ニ屬スル分ヲモ通算スヘシ

一罪狀等ハ可成詳細ニ記入シ置クヲ要ス例ハ賭博ノ如
キ第一條第一項賭博シタルモノ又何々又密賣淫取締規
則ノ如キ密ニ賣淫ヲシタルモノ又ハ媒合シタルモノ
等ト記入スルノ類

明治 年 月 日 特報		著印	
遭	強盜	罪	強盜
強盜	放火	犯罪	放火
放火	謀殺	犯	謀殺
謀殺	毆打	捕	毆打
毆打	傷殺	拿	傷殺
傷殺			
要摘故事	官警	實	効
場	所	事	由
月	日	官	氏
名			

部下ニ事
施行ノ
順序方法
ヲ授ケタ
ル大略

出火場所		出火日時	延焼	軒數	出火場所	出火日時	延焼	軒數	出火場所	出火日時	延焼	軒數
何郡何村何番屋敷	何某住家持家等	明治何年何月何日夜	何軒全燒	何軒半燒	何郡何村何番屋敷	明治何年何月何日夜	何軒全燒	何軒半燒	何郡何村何番屋敷	明治何年何月何日夜	何軒全燒	何軒半燒
原由	出火原因	救護	軒延燒全燒	軒坪數半燒	原由	出火原因	軒延燒全燒	軒坪數半燒	原由	出火原因	軒延燒全燒	軒坪數半燒
巡查	何之誰	燒失	何坪家屋	何坪家屋	巡查	何之誰	何坪家屋	何坪家屋	巡查	何之誰	何坪家屋	何坪家屋
全戸燒失	何十何坪	何十何坪	佛宇	佛宇	全戸燒失	何十何坪	佛宇	佛宇	全戸燒失	何十何坪	佛宇	佛宇

備考

記載例

- 一 出火場所ノ欄ニハ出火ノ場所ヲ記入スルモノトス例ハ
ハ某郡町村番屋敷何某持家住家扣又字山林原野ト記ス
ルノ類
- 二 出火原因ノ欄ニハ失火放火不審ノ出火雷火等ヲ分テ記
入スルモノトス但失火ニ係ルハ其原因ヲ詳記ス可シ
例ハ炊用竈ノ殘火或ハ薪灰ヨリ等ト記スルノ類
- 三 家屋種別ノ欄ニハ燒失セシ家屋ノ種別ヲ記入スル者ト
ス例ハ學校病院神社佛閣住所納屋等ノ火元延燒ヲ別
テ記スル等ノ類
- 四 様式ニ朱記スル者ハ其一例ヲ示スモノナリ
- 五 右ノ外本表式ニ照シ記入スルモノトス

發見 事由	何郡何町村何之難拾舉ケ訴 出ツリ			
	拾舉ケ 場所 同郡何村字某所ノ何々ニ於			
	拾舉ケ 年月日	姓名 何某	或ハ姓不 詳某々ハ	何年何月何日 不詳又ハ何年何
	年月日	不詳	不詳	不詳
生死別	男	救護人	民	品
生	男			置添 綿地襪一ヶ金指輪 一ヶ等
現場ノ 摸樣	黃八丈織甲斐絹裏付産衣薄世梅 綴絹下着フラン子ル下袖四面ニ處 綴ッ布キ籃谷ニ入レ置キアリ等			拾人ノ願 息ニ任セ何村戸 長へ届出サセ救 發セシム

(朱書ハ記入セシ一例ナリ)

發見 事由	何郡何町村何之難拾舉ケ訴 出ツリ			
	拾舉ケ 場所 同郡何村字某所ノ何々ニ於			
	拾舉ケ 年月日	姓名 何某	或ハ姓不 詳某々ハ	何年何月何日 不詳又ハ何年何
	年月日	不詳	不詳	不詳
生死別	男	救護人	民	品
生	男			置添 綿地襪一ヶ金指輪 一ヶ等
現場ノ 摸樣	黃八丈織甲斐絹裏付産衣薄世梅 綴絹下着フラン子ル下袖四面ニ處 綴ッ布キ籃谷ニ入レ置キアリ等			拾人ノ願 息ニ任セ何村戸 長へ届出サセ救 發セシム

全年齡	同	同	同	同
變死傷 人ノ住 所氏名	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某
居人	奄藝郡大部山村州 八番 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某
備考	重傷ナリシモ要所ナシテ避シナ以テ致命ニ至ラス	銳鎌ニテ後腿ハ及 肩先ヲ斬ラレ	同	同
同	同	同	同	同
原由	同村何某ノ妻誰ト 姦通ノ現場ヲ撞見 サレ本夫ノ爲ニ	同	同	同
備考	同	同	同	同
同	同	同	同	同
原由	同	同	同	同
備考	同	同	同	同

全年齡	同	同	同	同
變死傷 人ノ住 所氏名	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某
居人	奄藝郡大部山村州 八番 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某
備考	重傷ナリシモ要所ナシテ避シナ以テ致命ニ至ラス	銳鎌ニテ後腿ハ及 肩先ヲ斬ラレ	同	同
同	同	同	同	同
原由	同村何某ノ妻誰ト 姦通ノ現場ヲ撞見 サレ本夫ノ爲ニ	同	同	同
備考	同	同	同	同
同	同	同	同	同
原由	同	同	同	同
備考	同	同	同	同

全年齡	同	同	同	同
變死傷 人ノ住 所氏名	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某
居人	奄藝郡大部山村州 八番 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某	同郡同村五番地 何某
備考	重傷ナリシモ要所ナシテ避シナ以テ致命ニ至ラス	銳鎌ニテ後腿ハ及 肩先ヲ斬ラレ	同	同
同	同	同	同	同
原由	同村何某ノ妻誰ト 姦通ノ現場ヲ撞見 サレ本夫ノ爲ニ	同	同	同
備考	同	同	同	同
同	同	同	同	同
原由	同	同	同	同
備考	同	同	同	同

記載例

一變死傷セシ場所ノ欄ニハ變死傷セシ場所ヲ記入スルモ
ノトス例ヘハ某町村某方ニ於テ又ハ字某山林池沼等ニ

於テ或ハ途上字某處ニ於テ等ト記スルノ類
 二變死傷別ノ欄ニハ變死傷ノ別即自殺及セントセシ死傷
 及ヒセントセシ等ノ別ヲ記入スルモノトス
 三變死傷原由ノ欄ニハ變死傷ノ原由ヲ記入スルモノトス
 例ハハ自殺ニ對シテハ何々シテ精神錯亂シ又ハ何々ヨ
 リ前非ヲ悔ヒ等被殺傷ニ對シテハ何々ノ遺恨ニヨリ又
 押入トシ強盜抗拒シテ等死傷ニ對シテハ何々ノ天災ニ
 罹リ又ハ何々ノ災害過失ニテ等ト記入スルノ類
 四所爲ノ欄ニハ原由ニ對スル所爲ヲ記入スルモノトス例
 ハハ自殺ノ目ニ對シテハ何々シテ縊シ又ハ銃創ニテ何
 ニテ等被殺傷ノ目ニ對シテハ何々ノ器具ヲ以テ何々セ
 ラレ又ハ棍棒ニテ何々セラレシ等死傷ノ目ニ對シテハ
 家潰ニ壓セラレ又ハ焚死溺死等ト記スルノ類
 五備考ノ欄ニハ事實ノ參考トナルハキモノヲ登記ス例ハ

ハ原由不詳ノ死者ニシテハ過失死又ハ被殺ト見認ムル
 等ノ類

六途上發病シテ倒死セシモノ餓死セシモノモ亦本表ニ
 登記スルモノトス

七右様式ニ朱書スルモノハ其一例ヲ示スモノナリ
 八右之外本表式ニ照シ記入スルモノトス

○警規第二拾五號 明治廿年六月二十八日

警 察 署
 分 署

各署簿冊保存期限左ノ通相定ム

一 本年警規第二拾四號簿冊整理第二條第一項乃至第十五
 項ノ書類ハ永年

一 全第十五項乃至第十八項ノ書類ハ三十年
 一 全第十九項第二十項ノ書類ハ拾年

- 一全第二十一項乃至第廿七項ノ書類ハ五年
 - 一全第廿八項乃至第五十五項ノ書類ハ三年
 - 一全第五十六項乃至第六十九項ノ書類ハ二年
 - 一全第七十項乃至第七十四項ノ書類ハ一年
 - 一以上掲クル簿冊ノ外成規ニ依リ調製スル書類ハ永年
 - 一保存期限ハ簿冊整理ノ月即チ翌年一月ヨリ起算ス
- 但特ニ保存期限ノ定メアルモノハ此限ニアラス

◎後見人及代人

明治十四年甲第百八十七號ヲ以改正

○天甲第五十七號 明治九年十月十三日

自今幼少(二十年以下)ニテ家督爲致候節ハ華士族平民ニ拘ラス親戚又ハ他人ニテモ戸ノ内外ヲ問ハス相當ノ人物相撰ミ後見人取極メ其都度戸長へ可届出尤後見人ヲ附シ候時間ハ幼主名印相用ニルニ及ハス候條該家ニ係ル諸願届

ハ勿論諸証書類モ總テ後見人印相用ヒ誰後見人ト肩書可致此旨布達候事

但二十年ニ至ルモ白痴瘋癲ニシテ後見難解者並ニ二十年ニ至リ後見相解候節ハ其旨戸長へ届出ヘシ

○天甲第百四十二號 明治十一年十月四日

明治九年十月天甲第五拾七號ヲ以テ幼主後見人ノ儀ニ付布達致置候處後見人取極メ戸長へ届出ノ節ハ親族協議シ兩名以上連署可致又後見人ニ於テ動不動産質入書入賣買等致候節ハ其証書ニモ前文ノ通連署可致儀ト可相心得此旨布達候事

○地甲第百四十七號 明治十一年十一月五日

區 戸 長

代人委任替ノ儀ニ付今般左ノ通内務卿ヨリ被達候ニ付爲心得此旨相達候事

明治十四年甲第百八十七號ヲ以テ但書改正

三重縣

明治十年九月一日代人委任替ノ儀島根縣へ達書指示置候處左ノ通改正候條此旨相達候事

代人ノ儀ハ總理部理ノ別無ク本人ニ於テ其旨ヲ信認シテ任スベキモノニ付本人ノ承諾ヲ得スシテ代人ヨリ直ニ代人ヲ選任スル權力ハ無之筋ニ候事

但委任狀中更ニ代人ヲ任シ得ヘキ旨登記有之分ハ格別之事

明治十一年十月十七日

内務卿伊藤博文

◎止宿及逗留ノ件

明治十年天甲第六十四號ヲ以テ改正

○天甲第十八號 明治十年二月廿八日

他府縣之者當縣管内ニ於テ逗留三日以上ニ及候節ハ戶籍法第十六則ニ依リ其宿主ヨリ所屬戶長へ可届出之處兎角

等閑成行不都合之事候條爾來右逗留人有之節ハ其部度必届出候様堅可相心得此旨布達候事

但戶長ニ於テハ其時々最寄警察署へ可相届事

○天甲第五拾壹號 明治十年四月七日

旅籠屋渡世ノ者ニ非ズンテ旅人ヲ宿泊セシムル義不相成候條此旨布達候事

但シ親戚或ハ懇意間ノモノ及官吏出張先御用都合ニ依リ他ニ止宿スルハ此限ニ在ラズ

○乙第二百廿一號 明治十二年十月十六日

郡役所

戶長役場

旅行免狀ヲ所持スル外國人旅行之節疾病其他不得已事故アルルハ旅籠渡世之者ニ無之トモ一時宿泊セシメ不苦尤同時ニ必其事故ヲ詳記シ戶長役場へ可爲届出若シ滞留數

●雜部門

止宿及逗留之件

日ニ及フキハ七日毎ニ爲届出候様可致旨今般太政官ヨリ
被達候條爲心得此旨相達候事

◎雜件

○警達第拾八號 明治十五年二月三日

警察署

民事上法衙ノ提喚ニ應セサル者巡查ヲシテ引致セシメ不
苦哉否ノ儀向ニ司法卿へ相伺候處拘引不相成旨指令有之
其趣相達置候處今般更ニ別紙之通指令有之候條裁判所ヨ
リ引致ノ照會有之時ハ之レニ應シ巡查派出可致此旨相達
候事

(別紙)

民事呼出ニ應セサル者引致方電報伺ニ對シ客月三十一日
ノ電報指令取消シ改メテ左ニ指令ス

追テ何分ノ達文アル迄ハ從前ノ通引致セシムヘシ

○警規第十五號 明治十六年九月二十二日

警察署

從來隨時ノ達書多々有之其斑雜不少ニ付潤色増損シテ更
ニ別紙ノ通更定ス因テ昨年十二月三十一日以前ノ達書ニ
シテ左ニ揭示スルモノ、外ハ總テ廢止候旨被相達候條此
旨相達候事

但本文廢止ニ付實際執務上差岡ヲ生シ候條件モ有之
候ハ、其理由ヲ具シ開申スヘシ

十一年六月六日付警部巡回ノ節景况具狀ノ件

十二年一月十日付四日市警察署ニ外國船取締ノ件

全 一月廿九日付尾鷲上野名 各署ニ遊歩規程ノ件

全 十月廿六日付貿易壹圓銀ノ件

十三年警達第九號非常事件通知ノ件

明治十八年甲第四號ヲ以テ消滅

- 全 全 第卅貳號乞食体ノモノ追拂ノ件
- 十四年全 第百五十六號電報ノ件
- 十五年警告達第六號
- 全 全 第十五號御用掛採用ノ節書類差出方ノ件
- 全 全 第十九號報告方ノ件
- 全 全 第廿四號書類送付ノ節親展書文字ノ件
- 全 全 第五拾二號探偵手續ノ件
- 全 全 第百三號博徒取締ノ件
- 全 全 第百廿七號學校開業式ノ片出張ノ件
- 全 全 警達第拾八號民事拘引ノ件
- 全 全 第三拾八號贖幣ノ件

○警規第拾八號 明治十九年四月九日

警察署

一處務規則第拾六節第七條第拾七節第拾條ノ次第モ有之

候得共明治十五年警告第拾九號達ニ依ルモノ、外ハ火災ノ報告ヲ爲スニ及ハズ

一免許證札ヲ付與スルモノハ別ニ聽許ノ指令書ヲ下付スルニ及ハズ

一其署ニ關係ノ件ハ各課署ヨリ直チニ照會スヘキヲ以テ其返詞ヲ要スルモノモ本署ヲ經ス直チニ其課署ヘ回答スヘシ

一拾六年警規第十五號達第六第七第九第十六第十七第十九第廿四第廿九項ノ屆書等及特報スヘキ者ノ内流行病報ニシテ蔓延ノ兆アルルハ從前ノ通一ヶ月分取纏メ翌月七日限リ送附シ第六十項ノ新聞紙未着ハ直チニ其署ヨリ新聞社ヘ照會シ第六十六項中廳舍借入家屋滿期后引續借入ノルハ其約定書寫ヲ以テ届出別段伺出ニ及ハズ第六十八第七十四項ノ屆書ハ差出スニ及ハズ

右相達候事

○乙第百八十九號 明治十八年十二月廿日

警察署
分署

今般警察署以下名稱區畫等改正候ニ付テハ處務上左之通
心得ヘシ

右相達候事

- 第七 左ノ諸件ハ分署ニモ亦之ヲ適用ス
- 一 明治十七年警甲第一號達 古物願等ニ係ル事
- 二 明治十七年警甲第六號達 質屋同上
- 三 明治十七年警甲第七號達 檢徽所ニ巡查派出ノ事
- 四 明治十七年警甲第十四號達中 警規第十八號警部
帶劍之事
- 五 明治十七年警甲第拾號達 囚人所持金ノ事

六 明治十八年警甲第六號達 船燈監査ノ事沿海分署
ニ限リ服行スヘシ

七 明治十八年警甲第七號達 同上 同

八 明治十八年警甲第五拾四號達 同上 同

九 明治十六年警規第一號達 皇族大臣等警衛ノ事

十 明治十六年警規第十五號達中

第壹項 第六項 第七項 第九項 第十七項 乃

至 第廿一項 第廿四項 第廿五項 第廿八項

乃至 第四十九項 第五十一項 第五十二項 第

五十三項 第五十七項 第六十四項 第六十五項

第七十項 第七十二項

十一 明治十六年警規第十六號達 科料金等納証ノ事

十二 明治十一年六月六日付達 警察巡回ノ節景況具

申ノ事

- 十三 明治十三年警達第九號達 非常通報ノ事
- 十四 明治十五年警告第十九號達 天災其他報告ノ事
- 十五 明治十五年警告第三百三號達 博徒取締ノ事
- 十六 明治十五年警告第三百三十七號達 學校開業式等
ニ出張相不成ノ事
- 十七 明治十五年警達第十八號達 民事勾引ノ事
- 十八 明治十七年警規第十五號達 贓物被告ノ手ニ在
ルモノ處置ノ事
- 十九 明治十七年警規第廿五號達 巡查志願人品行等
ノ事
- 二十 明治十七年警規第廿六號達 巡查休憩時間歸宿
不相成ノ事
- 廿一 明治十七年警規第十二號達 賭博犯假免ノ事
- 廿二 警察處務規則

- 第三節 賈淫處分 第三條第四條
- 第八節 巡查帶劍
- 第九節 巡查警邏 体式
- 第十節 巡查禮式
- 第十一節 巡查誓約書式
- 第十三節 營業願區處 第四條乃至第七條
- 第十四節 營業點檢
- 第十八節 注意報告
- 第十九節 事務受渡
- 第二十節 休暇
- 第廿三節 御通達ノ節外國人取扱
- 第廿三節 達凡例
- 第卅一節 賭博犯處分 第一條第二條第三條第九
條乃至第十二條

第卅二節 出勤簿等ノ事

卅四 明治十六年警甲第八號達 幼者處分ノ事

卅五 全 全 警甲第十號達 巡查歸省等ノ節証明ノ事

卅六 明治十八年警規第三號達 賭博犯假免ノ事

卅七 全 全 警規第十一號達 注意報ノ事

卅八 全 全 警規第十四號第四十七號達 古物運搬

等ニ係ル

卅九 全 全 警規第十九號達 重輕罪等事件表ノ事

三十 全 全 警規第二十號達 囚人賄ノ事

卅一 全 全 警規第三十四號達 墓地埋葬規則ニ係

ル

卅二 全 全 警規第三十九號達 達符號ノ事

卅三 明治十七年第十五號達 巡查帶劔心得ノ事

卅四 全 全 第十八號達 出版ニ係ル

卅五 全 全 第十九號達 古物帳簿ノ事

卅六 明治十六年警告第三十四號達 皇族大臣等守衛

ノ事

卅七 明治十七年警第四十五號同第一百十九號明治十八

年警規第五十號達 接壤警察署通信ノ事(名張木ノ

本南大社三分署服行ノ事)

卅八 明治十八年警第十七號達 草履ヲ以テ靴代用不

相成ノ事

卅九 全 全 警第十六號達 呼出狀ノ事

四十 全 全 警第三十四號達 主稅局員照合印ノ事

四十一 全 全 警第八十三號達 蝙蝠傘用ユル事不

相成ノ事

四十二 明治十七年警甲第三百三十三號達明治十八年警

第六十五號同年警第百五十號達 囚人發送時刻ノ事

四十三 明治十六年警第百廿二號達 郡役所等宛達服ノ行ノ丁

四十四 明治十五年乙第百八十二號達 禁厭祈禱ノ丁

四十五 明治十八年警規第四十八號達 民事裁判執行ノ丁

右之外警察署其他ノ達書中分署ノ取扱ニ係ル者ハ別ニ命令ヲ待タス直ニ服行スヘシ

第八 他警察署へ通報スヘキ事件ニシテ分署ノ取扱ニ係ルモノハ分署ヘモ同様通報スヘシ

第九 従前ノ達書中巡查交番所トアルヲ巡查派出所ト第三部トアルヲ第二部ト第四部トアルヲ第三部ト改ム

第十 分署内處務手續職務會方法起草ノ標準ハ警察署ノ

例ニ倣フヘシ

第拾壹 虎列刺病發生地交通遮斷ノ手續 明治十五年乙第

第二條中警察署ノ下ニ(分署)ノ二字ヲ挿入ス

第拾二 警察上ニ係ル諸件中 明治十六年警規第十五號達

第十項ヲ左ノ通改ム

第十項 巡查派出所ニ左ノ木札(竪四尺)ヲ掲クヘシ

巡查何之誰	巡查何之誰	巡查何之誰
警部補代理	何地分署詰	歸署申付候
申付候事	申付候事	事
年月日	年月日	年月日
三重縣	三重縣	三重縣
何警察署	何警察署	何警察署
又ハ分署		又ハ分署

第六拾三項ヲ(巡查佩用劍備付ノ員數ハ巡查定員ニ應

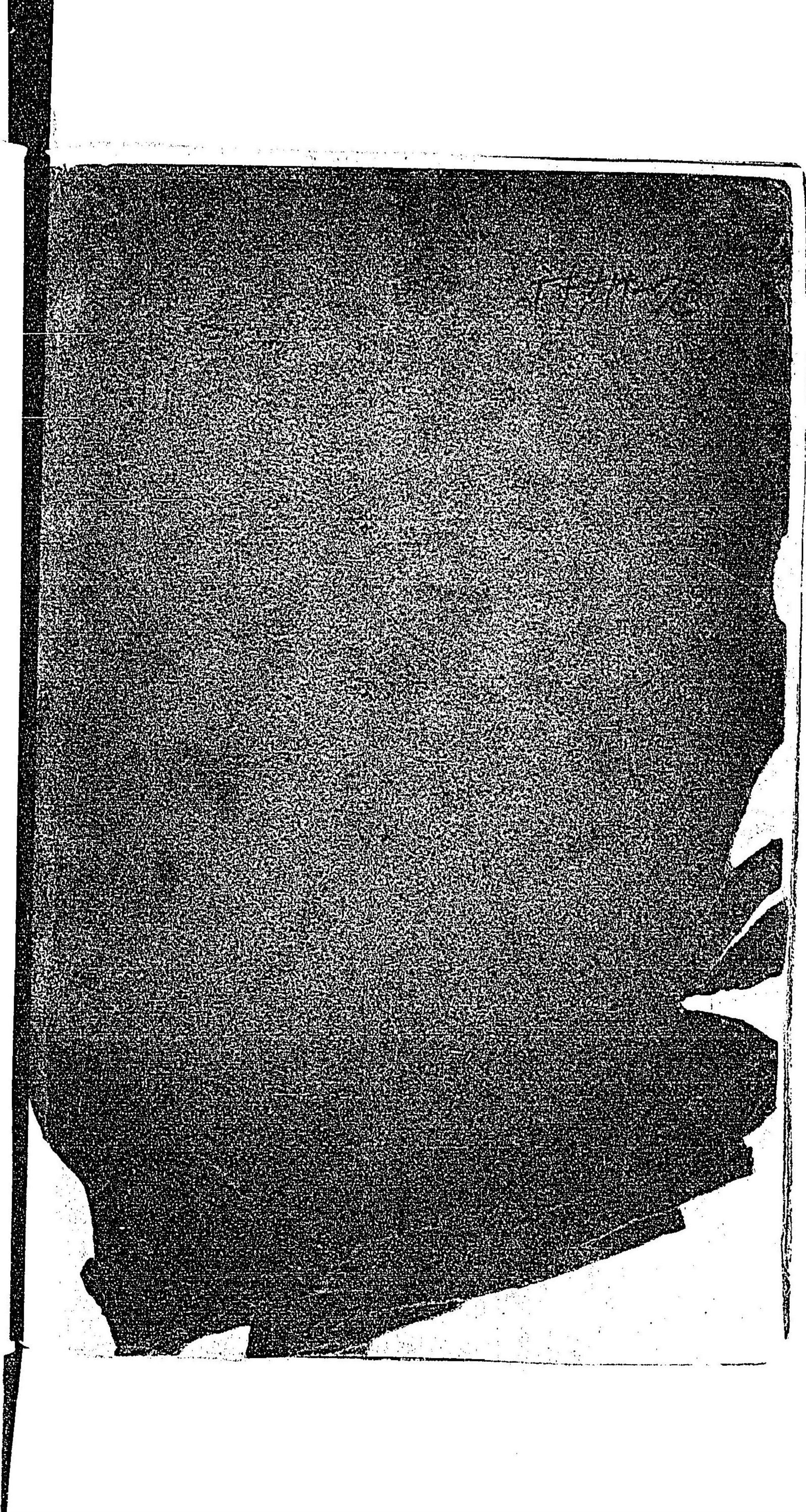
シテ配付シ尙豫備トシテ警察署及久居分署ハ各一本宛配付スト政ム

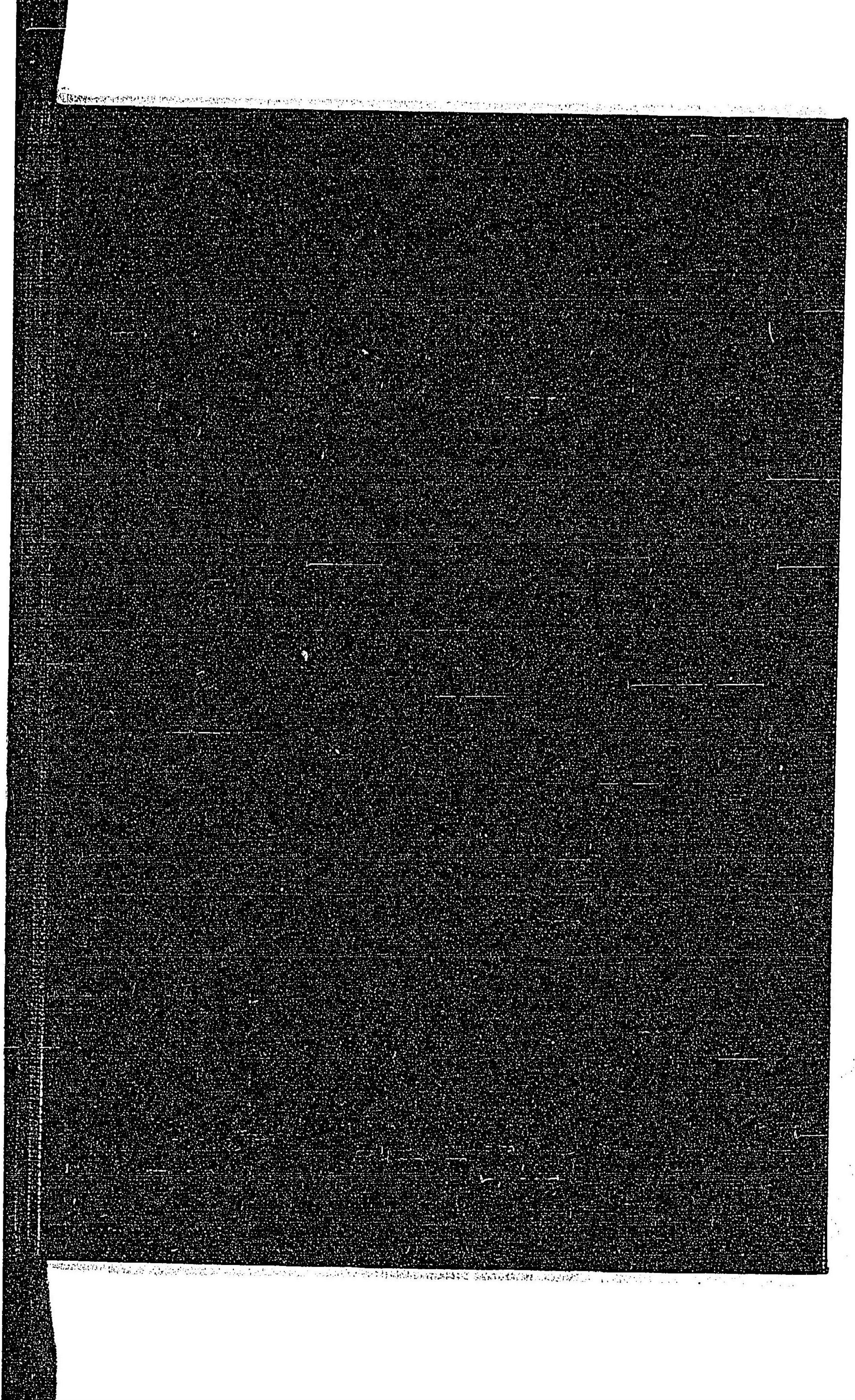
明治二十一年六月三十日出版届

三重縣警察本部

四川省政府

四川省政府





禁電子式複写